

iPortal Administrator ユーザーズガイド

**iPortal Application Server is a Trademark of IONA Technologies PLC>
Orbix 2000 is a Trademark of IONA Technologies PLC
Orbix is a Registered Trademark of IONA Technologies PLC.**

While the information in this publication is believed to be accurate, IONA Technologies PLC makes no warranty of any kind to this material including, but not limited to, the implied warranties of merchantability and fitness for a particular purpose. IONA Technologies PLC shall not be liable for errors contained herein, or for incidental or consequential damages in connection with the furnishing, performance or use of this material.
Java is a trademark of Sun Microsystems, Inc.

COPYRIGHT NOTICE

No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted, in any form or by any means, photocopying, recording or otherwise, without prior written consent of IONA Technologies PLC. No third party intellectual property right liability is assumed with respect to the use of the information contained herein. IONA Technologies PLC assumes no responsibility for errors or omissions contained in this book. This publication and features described herein are subject to change without notice.

Copyright © 2000 IONA Technologies PLC. All rights reserved.

All products or services mentioned in this manual are covered by the trademarks, service marks, or product names as designated by the companies who market those products.

書面による許可なしでの一切の複製を禁ずる。

iPortal Administrator ユーザーズガイド日本語版

2001 年 9 月 1 日

M2709

日本アイオナテクノロジー株式会社

目次

はじめに	V
対象となる読者	vi
このガイドの構成	vi
関連したドキュメンテーション	vii
ドキュメンテーションの入手方法と製品サポート窓口	viii
表記規則と表記記号	ix
技術用語	x
 パート 1: iPortal Administrator の概要	11
 第 1 章 iPortal Administrator 製品の概要	13
iPortal Administrator	14
iPortal Administrator のコンポーネント	15
iPortal Administrator Console	17
iPortal Administrator Web Console	19
iPortal Administrator Management Service	21
iPortal Administrator のタスク	22
 パート 2: iPortal Administrator Console	25
 第 2 章 iPortal Administrator Console の操作	27
iPortal Administrator Console の準備	28
iPortal Administrator Console の起動	29
iPortal Administrator Console の操作	32
iPortal Administrator Console アイコン	36
タイマー・オプションの設定	40
iPortal Administrator ヘルプの表示	42

第 3 章 アプリケーション管理	43
ドメインの管理	44
管理対象サーバの監視	47
ステータスの監視	50
管理対象サーバの制御	52
第 4 章 イベントの監視	57
Events Console の起動	58
表示オプションの設定	60
イベントの詳細表示	62
Events Console のカスタマイズ	63
第 5 章 ユーザ・ロールの管理	69
iPortal Administrator	
ユーザ・ログインおよびユーザ・ロール	70
新規ユーザの追加	74
ユーザ・ロール割当ての変更	76
ユーザの削除	78
忘れたパスワードの管理	79
デプロイメントのセキュリティ保全	81
第 6 章 コンフィギュレーション設定の管理	85
Configuration View	86
コンフィギュレーション設定の表示	89
コンフィギュレーション設定の検索	92
パート 3: iPortal Administrator	
Web Console	95
第 7 章 iPortal Administrator Web Console の操作	97
iPortal Administrator Web Console の準備	98
iPortal Administrator Web Console の起動	100
iPortal Administrator Web Console の操作	103
iPortal Administrator Web Console アイコン	107

第 8 章 アプリケーション管理	109
管理対象サーバの監視	110
管理対象サーバの制御	112
第 9 章 イベントの監視	117
Events Console の起動	118
イベントの表示	119
 パート 4: iPortal Administrator 管理サービス	 121
第 10 章 管理サービスの設定	123
管理サービス・コンフィギュレーション	124
イベント・ログの設定	126
リソース・エージェントの設定	127
イベント・リスナーの設定	128
イベント履歴処理の設定	130
イベント・フィルタの設定	131
イベント処理の設定	132
管理サービス Web サーバの設定	133
 技術用語集	 135
 索引	 145

はじめに

iPortal Administrator はコンポーネント・ベースの分散エンタープライズ・アプリケーションの管理を行うための様々なツールを取り揃えたもので、IONA の ART (Adaptive Runtime Technology) と統合されています。これにより IONA の iPortal Suite 製品群に含まれる全ての製品の管理をシームレスに行うことができます。

本章は、次のセクションで構成されます。

・対象となる読者	vi
・このガイドの構成	vi
・関連したドキュメンテーション	vii
・ドキュメンテーションの入手方法と 製品サポート窓口	viii
・表記規則と表記記号	ix
・技術用語	x

対象となる読者

本書は分散エンタープライズ・アプリケーション実行環境上でシステム管理に携わる管理者ならびに分散エンタープライズ・アプリケーション開発者を対象にしています。管理者の方々には分散アプリケーション構築に必要とされるプログラミングの知識は必要とされません。

必須事項 本書は読者の方々が iPortal Administrator の主要概念を既に理解していることを前提として著されています。また、パート 2、ならびにパート 3 はパート 1 に記述されている本製品の概念をご理解の上でご覧読ください。パート 2、ならびにパート 3 はそれぞれ独立したセクションとなっており、必要に応じて参照していただけるようになっています。

このガイドの構成

本書は次の 4 つのパート、ならびに用語集によって構成されています。

パート 1 : iPortal Administrator の概要

iPortal Administrator の概要が記述されています。

パート 2 : iPortal Administrator Console

Java GUI による iPortal Administrator Console の使用方法について解説します。

パート 3 : iPortal Administrator Web Console

Web ブラウザ・ベースの各ツールの使用方法について解説します。

パート 4 : iPortal Administrator Management Service

Management Service の使用方法について解説します。

用語集

本書で使用されている技術用語について解説します。

関連したドキュメンテーション

iPortal Application Server ドキュメンテーション

IONA Technologies 社は iPortal Application Server に関連する次のようなドキュメンテーションを用意しています。

- 『iPortal Application Server 開発者ガイド』
- 『Orbix 2000 管理者ガイド』

IONA Technologies 社が発行するその他の英文ドキュメンテーションに関する情報は本社英文 Web サイト (<http://www.iona.com/>)、また和訳されたドキュメンテーションについての情報は日本アイオナテクノロジー Web サイト (<http://www.iona.co.jp/>) をご覧ください。

その他の関連情報

IONA アップデート・センター（英語）からは本製品およびその他全ての IONA Technologies 社製品の最新リリース版ならびにパッチを入手することができます。

<http://www.iona.com/support/update/>

Sun Microsystems 社 Web サイトからは J2EE ならびに Java 技術に関するその他の最新情報を入手することができます。

<http://www.sun.co.jp/>

J2EE では XML（拡張マークアップ言語）を利用しています。XML に関する公式の情報は W3C（World Wide Web コンソーシアム）Web サイトから入手することができます。

<http://www.w3c.org/>

Organization for the Advancement of Structured Information Standards (OASIS) による Web サイトからは XML に関する更に詳しい情報を入手することができます。（英語）

<http://www.oasis-open.org/cover/sgml-xml.html>

ドキュメンテーションの入手方法と 製品サポート窓口

Orbix 関連のドキュメンテーションは定期的にアップデートされています。最新版の英文ドキュメンテーションは次の URL よりダウンロードできます。

<http://www.iona.com/docs/>

本製品およびその他全ての IONA Technologies 社製品のサポートに関するお問い合わせ、また本書およびこの他全ての IONA Technologies 社ドキュメンテーションに関するご意見ご希望は、次のアドレスまで電子メールにてお問い合わせください。（日本語で受け付けています）

support.japan@iona.com

また、日本アイオナテクノロジー社ウェブサイトでは関連技術、アイオナテクノロジー社製品および技術セミナーなどの関連サービスに関する最新の情報を日本語で提供しています。

<http://www.iona.co.jp/>

表記規則と表記記号

表記規則 本ガイドでは次の表記規則を使用しています。

等幅クーリエ体 (AbcdeF)	本文中の等幅クーリエ体文字による記述はコードの一部、および記述されたとおりに入力される必要のあるクラス、関数、変数、コマンドなどを表します。例えば、コマンドラインで入力するコマンドは次のように記述されます。 java iportal.admin
ゴシック体	本文中のゴシック体による記述は製品名、ドキュメント名、新規用語、あるいはユーザ・インターフェイスによって表示されるメッセージを表します。 ・製品名：iPortal Administrator ・ドキュメント名：『iPortal Application Server 開発者ガイド』 ・ユーザ・インターフェイス： スタートボタンをクリックし、プログラム→IONA iPortal Application Server → iPortal Application Server Tools の順に選択します。
等幅クーリエ斜体 (AbcdeF) 等幅クーリエ太字 (AbcdeF)	本文中およびシンタックス中の等幅クーリエ斜体文字あるいは等幅クーリエ太字による記述はユーザが指定入力する必要のある変数（コマンドの引数あるいはパスなど）を表します。 install-dir/etc/domains

表記記号 本ガイドでは次の表記記号を使用しています。

プロンプト無し	コマンド・シェルにプロンプトが記載されていない場合、コマンドのフォーマットが複数のプラットフォームに共通であることを表します。
%	% 記号は UNIX のコマンド・シェル・プロンプトのうち、ROOT 権限を必要としないものを表します。
#	# 記号は UNIX のコマンド・シェル・プロンプトのうち、ROOT 権限を必要とするものを表します。
>	> 記号は DOS、および Windows 系 OS のコマンド・プロンプトを表します。
...	フォーマットおよびシンタックスの記述中に水平あるいは垂直に「...」と記述されている場合、簡略化のためにフォーマットおよびシンタックスの一部が省略されていることを表します。
[]	フォーマットおよびシンタックスの記述中にある角括弧は任意で選択可能な要素を囲みます。
{ }	フォーマットおよびシンタックスの記述中にある波括弧は選択肢を囲みます。
	フォーマットおよびシンタックスの記述中にある波括弧内の垂直線 は各選択肢を区切ります。

技術用語

本書で使用される次の用語の定義です。

Beans	エンタープライズ Java Bean の略気。 (EJB:Enterprise Java Beans) JAR あるいは EAR ファイルに含まれる EJB はアプリケーションのビジネス・ロジックを含みます。
Web コンポーネント	エンタープライズ・アプリケーションのプレゼンテーション・ロジックを含むサーブレット、JavaServer Page、ならびに HTML ファイル。WAR ファイル内で提供され、EAR ファイルに組み込まれる。
コンポーネント	エンタープライズ・アプリケーションの EAR ファイルに組み込まれた EJB、サーブレット、JSP、ならびにその他の関連ファイル。

パート 1

iPortal Administrator の概要

パート 1 は次の章で構成されます。

・ [iPortal Administrator 製品の概要](#) 13 ページ

iPortal Administrator

製品の概要

iPortal Administrator はコンポーネント・ベースの分散エンタープライズ・アプリケーションを管理するための各種ツールのセットです。本章では、iPortal Administrator の概要とそれを利用した一般的な管理タスクについて説明します。

本章は、次のセクションで構成されます。

・ iPortal Administrator	14 ページ
・ iPortal Administrator のコンポーネント	15 ページ
・ iPortal Administrator Console	17 ページ
・ iPortal Administrator Web Console	19 ページ
・ iPortal Administrator Management Service	21 ページ
・ iPortal Administrator のタスク	22 ページ

iPortal Administrator

概要 iPortal Administrator は、コンポーネント・ベースの分散エンタープライズ・アプリケーションをデプロイ、設定、監視、および制御するための、IONA オリジナルのツールならびにアプリケーションのセットで、IONA の ART (Adaptive Runtime Technology) 技術と統合されています。iPortal Administrator を使用することにより、IONA 製品群および IONA 製品を使用して開発したアプリケーションのシームレスな管理を実現します。

iPortal Administrator は CORBA や EJB などの特定なテクノロジーのみを対象とするものではなく、一般的な管理パラダイムを提供するものです。これにより、アプリケーションの作成に使用したテクノロジーに関する知識を持たなくとも、そのアプリケーションの管理を行うことが可能となります。

IONA 製品群と iPortal Administrator

iPortal Administrator を使用することにより、IONA 製品群および IONA 製品を使用して開発した分散アプリケーションのシームレスな管理および設定が可能となります。IONA 製品群には、次の製品が含まれています。¹

- iPortal Application Server
- iPortal Integrator
- iPortal XMLBus
- Orbix 2000

前提条件 iPortal Administrator の使用には、IONA 製品群についての知識は必要がないようにデザインされています。ただし、EJB ベースであるか CORBA ベースであるかに関わらず、分散アプリケーションについての基礎的な理解が必要とされます。iPortal Administrator を利用することにより C++、Java、または CORBA ベースのシステムの管理を行うことが可能です。

1. IONA Suit についての詳細は、次の IONA Web サイトをご覧ください。
<http://www.iona.com/products>

iPortal Administrator のコンポーネント

概要 iPortal Administrator は、次の主要コンポーネントから構成されています。

- iPortal Administrator Console
- iPortal Administrator Web Console
- iPortal Administrator Management Service

iPortal Administrator Console

iPortal Administrator Console は、iPortal Administrator に、使いやすく高性能な Java GUI（グラフィカル・ユーザ・インターフェイス）を提供します。このコンソールを使用して、アプリケーションの管理、コンフィギュレーションの設定、およびイベントのロギングを行うことができます。iPortal Administrator Console は、IIOP（Internet Inter-ORB Protocol）を使用して Management Service と通信します。

iPortal Administrator Web Console

iPortal Administrator Web Console は、HTML および JavaScript を使用する iPortal Administrator に Web ブラウザ・インターフェイスを提供します。Web Console を使用することにより、アプリケーションの管理、およびイベントのロギングをどこからでも行うことができるので、時間のかかるダウンロードや煩わしいインストールを行う必要がなくなります。

iPortal Administrator Management Service

iPortal Administrator Management Service は、ドメイン内の管理情報にアクセスするための拠点となります。ドメインは、物理的な場所における管理対象サーバ・プロセスの抽象的な集合です。Management Service は、iPortal Administrator Console および iPortal Administrator Web Console の両方からアクセスします。

このガイドでは、これらのツールの使用方法を説明します（[16 ページの図 1](#)を参照）。

その他の機能

iPortal Administrator には、例えばロールに基づいたセキュリティなど、これらのツールの他にもさまざまな機能が備わっています。さらに、プログラマは必要に応じたサーバ・コードのインストールメンテーションが可能です。インストールメンテーションとは、サーバ・コードに特定の管理機能を追加するためのコードを追加することです。インストールメンテーションを行うことにより、システム特有のコンポーネントの監視も可能となります。

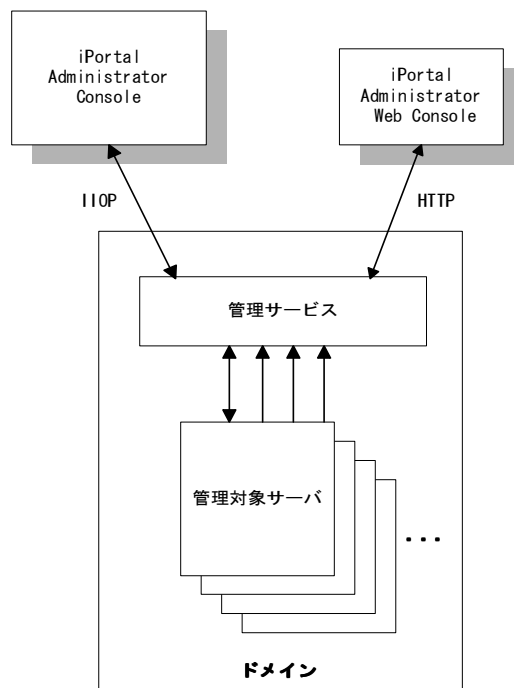


図 1: iPortal Administrator 主要コンポーネント

アプリケーション 管理の追加 (インストールメンテーション)

全ての iPortal 製品は、IONA 製品群を使用して構築したアプリケーションの Management Service にコア情報を提供できるようにあらかじめインストールメンテーションが施されています。ただし、独自のアプリケーション用にインストールメンテーションを追加してカスタマイズを行うこともできるように、サーバ・コードの完全なインストールメンテーションも可能となっています。サーバ・アプリケーションにインストールメンテーションを行う方法についての詳細は、『iPortal Application Server 開発者ガイド』を参照してください。

iPortal Administrator Console

概要 iPortal Administrator Console は直感的な操作が可能なインターフェイスを持つ Java GUI で、分散アプリケーションの探索および管理に使用します。図 2 に示すように、左側のナビゲーション・ツリーには、default-domain に表示される情報が表示されています。右側の詳細ビューにはデフォルトのサーバ・プロセス `iPAS.Server.Default` が表示されています。このサーバをクリックすると、そのサーバが管理する属性が表示されます。

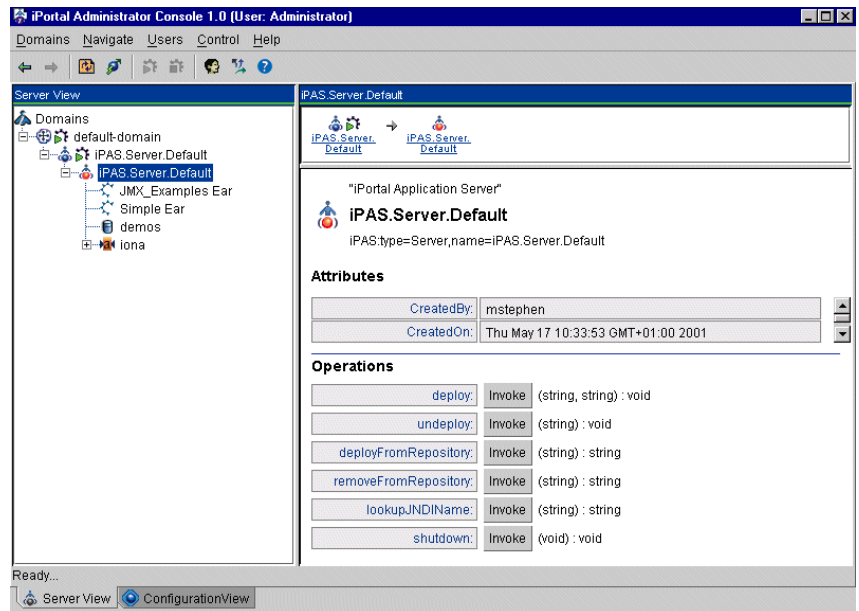


図 2: iPortal Administrator Console

複数のアプリケーション およびドメイン

単一の iPortal Administrator Console インスタンスを使用し、ローカルおよびリモートのホスト・マシン上の複数のドメインで動作する複数のアプリケーションを管理することができます。

また、複数のコンソールを使用して同一アプリケーション・コンポーネントを同時に管理することもできます (18 ページの図 3 を参照)。

Management Service との相互作用

各 iPortal Administrator コンソールは、監視されるそれぞれのドメイン内の Management Service への接続を保守します。Management Service は、ドメイン内の管理情報へのアクセスの拠点となり、ドメイン内で管理される全てのサーバに関する情報を公開します。

iPortal Administrator Console の アーキテクチャ

図 3 はアーキテクチャの概要を表しています。iPortal Administrator Console 1 と 3 は 1 つの Management Service のみとインタラクトするので、2 つのドメインのうち的一方でしか管理対象サーバを管理できません。

iPortal Administrator Console 2 は両方のドメインの Management Service とインタラクトするので、両方のドメインで管理対象サーバを制御できます。

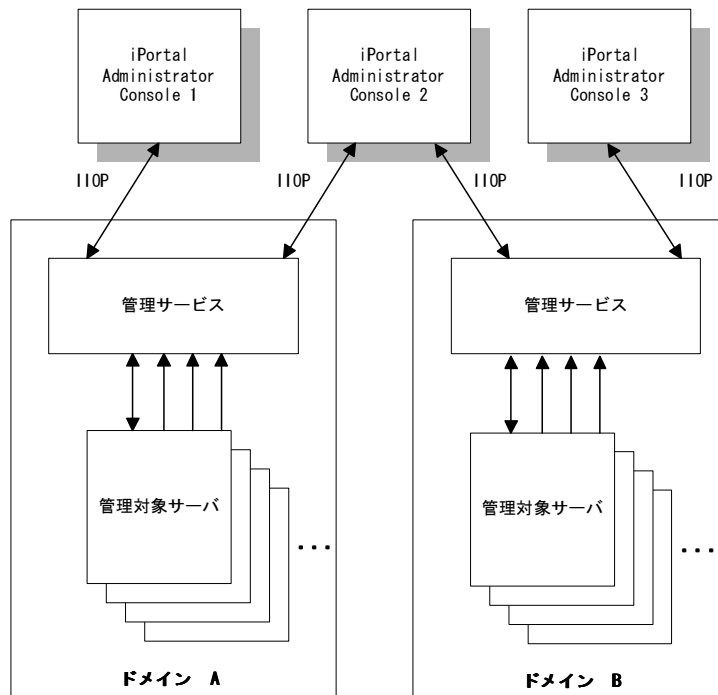


図 3: iPortal Administrator Console のアーキテクチャ

iPortal Administrator Web Console

概要 iPortal Administrator Web Console は、分散アプリケーションの探索および管理のための一般的な Web ブラウザによるインターフェイスを提供します。iPortal Administrator Web Console は HTML および JavaScript を使用し、Microsoft Internet Explorer の標準の表示を使用してデータを表します。これにより、初心者ユーザも経験豊富なユーザ同様、分散アプリケーションを簡単に操作できます。図 4 は、Web Console のユーザ・インターフェイスの例です。



図 4: iPortal Administrator Web Console

複数のアプリケーション

単一の iPortal Administrator Web Console インスタンスを使用して単一ドメイン内の複数のアプリケーションを管理できます。また、複数の Web Console インスタンスを使用して単一マシンから複数のドメインを管理することもできます (20 ページの図 5 を参照)。

Management Service とのインタラクション

各 iPortal Administrator Management Service は、特別な URL を使用して管理データをアクセス可能にします。Management Service は各ドメイン内の管理情報へのアクセス拠点となり、ドメイン内の全ての管理対象サーバの情報を公開します。

Web Console の アーキテクチャ

図 5 は Web Console のアーキテクチャの概要を表しています。iPortal Administrator Web Console の各インスタンスは単一の Management Service のみとインタラクトします。つまり、各コンソールは 2 つのドメインのうち的一方しかサーバを管理できません。

複数のインスタンスの Web Console は同一の HTTP ポートを介して同じ Management Service とインタラクトできますが、この場合、接続は保守されません。Management Service は、インタラクトする Web Console へのリファレンスを保持しません。

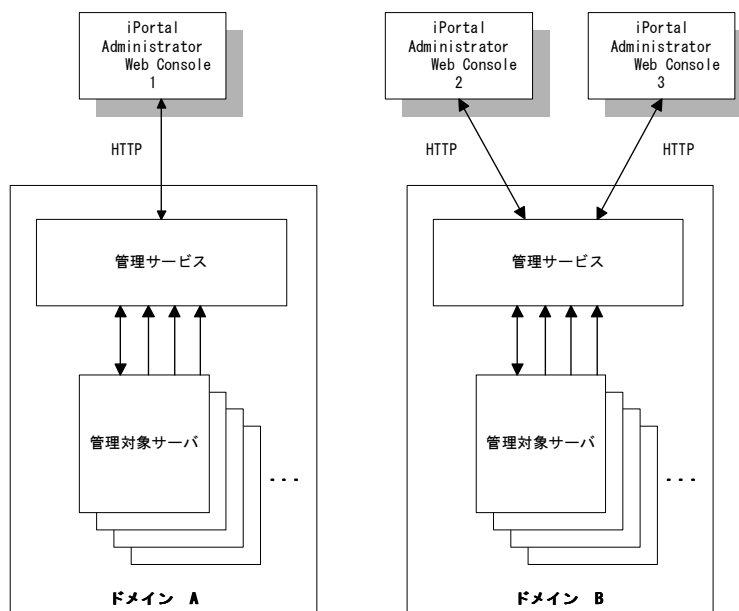


図 5: iPortal Administrator Web Console のアーキテクチャ

iPortal Administrator Management Service

概要 iPortal Administrator Management Service は、ドメイン内の管理情報にアクセスするための拠点となります。Management Service は、管理されるアプリケーションと管理ツールとの間でバッファとして動作します。

管理情報 Management Service は主要な状態情報を保守するので、管理アプリケーションに常時アクセスする必要がなくなり、パフォーマンスが向上します。

Management Service は、ドメイン内の全ての管理対象サーバの情報を保管および公開します。また、ドメイン内の全ての管理対象サーバの属性、オペレーション、およびイベントを公開します。また、Management Service は、ドメイン内の各ユーザのユーザ・ロールおよびパスワードの情報を保管します。

主要機能 Management Service の提供する重要な機能は次のとおりです。

- 全ての管理情報に対する中央集中リポジトリ
- イベント・ロギング情報の中央集中コレクション
- イベント・ログおよびエージェント情報の永続ストレージ
- ログインおよびユーザ・ロール情報の永続ストレージ
- サーバ・プロセスの起動と終了

詳細は、[第 10 章](#)を参照してください。

iPortal Administrator のタスク

概要 iPortal Administrator を使用して実行できる一般的な管理タスクは、次のとおりです。

- ドメインの管理
- サーバの管理
- イベントの監視
- コンフィギュレーション設定の管理
- ユーザ・ロールの管理

このセクションでは、これらのタスクについての概要を説明します。詳細は後述する各トピックに関する章を参照してください。

ドメインの管理 ドメインの一般的な管理タスクは、次のとおりです。

- ドメインの表示
- ドメインの選択
- ドメイン・ステータスの監視（アクティブまたは非アクティブ）

iPortal Administrator Console を使用したドメインの管理方法については、[第 3 章](#)を参照してください。iPortal Administrator Web Console を使用したドメインの管理方法については、[第 8 章](#)を参照してください。

サーバの管理 サーバの一般的な管理タスクは、次のとおりです。

- サーバの表示
- サーバ・ステータスの監視（アクティブまたは非アクティブ）
- サーバの制御

これには、サーバの起動または停止、属性の設定、およびオペレーションの起動を含みます。

iPortal Administrator Console を使用したサーバの管理方法については、[第 3 章](#)を参照してください。また、iPortal Administrator Web Console を使用したサーバの管理方法については、[第 8 章](#)を参照してください。

イベントの監視 イベントの一般的な管理タスクは、次のとおりです。

- イベントを管理するドメインの選択
- イベントの完全な詳細の表示
- イベント表示オプションの設定

例えば、表示するイベントの数やイベントのフィルタを設定したり、表示をカスタマイズすることができます。

iPortal Administrator Console を使用したイベントの管理方法については、[第 4 章](#)を参照してください。iPortal Administrator Web Console を使用したドメインの管理方法については、[第 9 章](#)を参照してください。

**コンフィギュレーション
設定の管理** コンフィギュレーションの一般的な管理タスクは、次のとおりです。

- ドメインの読み込み
- コンフィギュレーション設定の表示
- コンフィギュレーションの検索

iPortal Administrator Console を使用したコンフィギュレーション設定の管理方法については、[第 6 章](#)を参照してください。Management Service のコンフィギュレーション設定の管理方法については、[第 10 章](#)を参照してください。

ユーザ・ロールの管理 ユーザ・ロールの一般的な管理タスクは、次のとおりです。

- 新規ユーザの追加
- ユーザの削除
- ロールの割当ての変更
- 忘れたパスワードの管理

iPortal Administrator Console を使用したユーザ・ロールの管理方法については、[第 5 章](#)を参照してください。

準備と設定 iPortal Administrator Console の操作についての詳細は、[第 2 章](#)を参照してください。iPortal Administrator Web Console の操作についての詳細は、[第 7 章](#)を参照してください。

パート 2

iPortal Administrator Console

パート 2 は次の章で構成されます。

- ・ iPortal Administrator Console の操作 27 ページ
- ・ アプリケーション管理 43 ページ
- ・ イベントの監視 57 ページ
- ・ ユーザ・ロールの管理 69 ページ
- ・ コンフィギュレーション設定の管理 85 ページ

iPortal Administrator Console の操作

本章では、iPortal Administrator Console の起動、終了、ならびにナビゲーションの方法や、ヘルプの表示方法などの操作について説明します。

iPortal Administrator Console は分散アプリケーションの操作および管理に使用できる Java GUI です。これは一般的な Explorer による表示インターフェイスを使用してデータを表すので、初心者ユーザでも経験豊富なユーザ同様簡単に操作できます。iPortal Administrator Console についての概要は、[13 ページの「iPortal Administrator 製品の概要」](#)を参照してください。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ [iPortal Administrator Console の準備 28 ページ](#)
- ・ [iPortal Administrator Console の起動 29 ページ](#)
- ・ [iPortal Administrator Console の操作 32 ページ](#)
- ・ [タイマー・オプションの設定 40 ページ](#)
- ・ [iPortal Administrator ヘルプの表示 42 ページ](#)

iPortal Administrator Console の準備

概要 iPortal Administrator Console を起動する前に、環境が正しく設定されていて、iPortal Application Server が動作していることを確認してください。

コンフィギュレーションの確認 iPortal Application Server を正しくインストールすると、iPortal Administrator Console がシステムに設定されます。

システムが正しく設定されていることを確認するには、次のコマンドを入力します。

UNIX	<code>install-dir/setenvs.sh</code>
Windows	<code>install-dir\setenvs.bat</code>

iPortal Application Server の動作の確認 iPortal Administrator Console を起動する前に、iPortal Application Server が正しく動作していることを確認します。

iPortal Application Server を稼動するには、次の操作を行います。

全てのプラットフォーム	次のコマンドを入力する。 <code>java iportal.server</code>
Windows	次の手順を行う。 1. スタート ボタンをクリックし、 プログラム → IONA iPortal Application Server → iPortal Application Server Tools の順に選択する。 ショートカット・ツールバーが表示される (図 6 を参照)。 2. Start Server ボタンをクリックする (図 6 の右側を参照)。 iPortal Administrator 管理サービスを含む iPortal Application Server およびそのサービスが起動する。

iPortal Application Server ショートカット・ツールバーの **Start Server** ボタンを図 6 に示します。

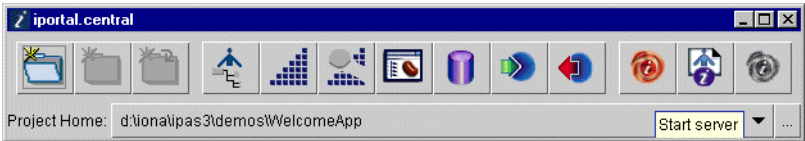


図 6: ツールバーからのサーバ起動

管理対象サーバの
動作の確認

iPortal Administrator ではランタイム管理が可能です。実装されたサーバのうち、管理対象サーバは iPortal Application Server を除いて全て動作している必要があります。

iPortal Administrator Console の起動

概要 コンフィギュレーションの確認ならびに、iPortal Application Server の動作の確認が完了すると、iPortal Administrator Console を起動することができます。

このセクションでは、コマンド・ラインおよび Windows **スタート**・メニューからの起動方法、および管理者としてのログイン方法について説明します。

コマンド・ライン
からの起動

iPortal Administrator Console を起動するには、次のコマンドを入力します。

全てのプラットフォーム	<code>java iportal.admin</code>
-------------	---------------------------------

Windows
スタート・メニュー
からの起動

iPortal Administrator Console を起動するには、次の操作を行います。

1. **スタート**→**プログラム**→**IONA iPortal Application Server**→**iPortal Application Server Tools** の順に選択する。ショートカット・ツールバーが表示される (図 7 を参照)。

2. **iPortal Administrator** ボタンをクリックします (図 7 の右側を参照)。

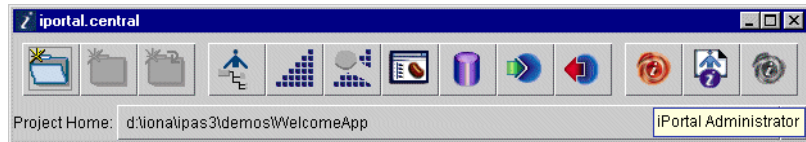


図 7: ツールバーからの iPortal Administrator Console の起動

初めてのログイン iPortal Administrator Console を初めて起動すると、**Setting Password for Administrator (first login)** ダイアログ・ボックスが表示されます。ここで新規ユーザのログイン・パスワードを設定します (図 8 を参照)。

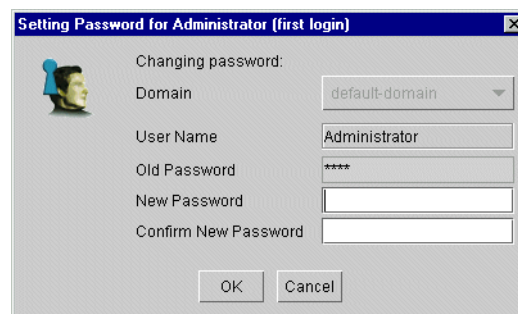


図 8: Setting Password for Administrator (First Login) ダイアログ・ボックス

新規ユーザ・パスワード の設定

初めてログインすると、デフォルトで **User Name** は **Administrator**、**Password** は **IONA** にそれぞれ設定されています。新規ユーザ・パスワードを設定するには、次の操作を行います。

1. **New Password** および **Confirm New Password** フィールドに新しいパスワードを入力する。
2. **OK** ボタンをクリックする。

注: **User Name** および **password** フィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

iPortal Administrator Console

ログインが完了すると、iPortal Administrator Console が表示されます。図 9 は iPortal Administrator Console の例です。

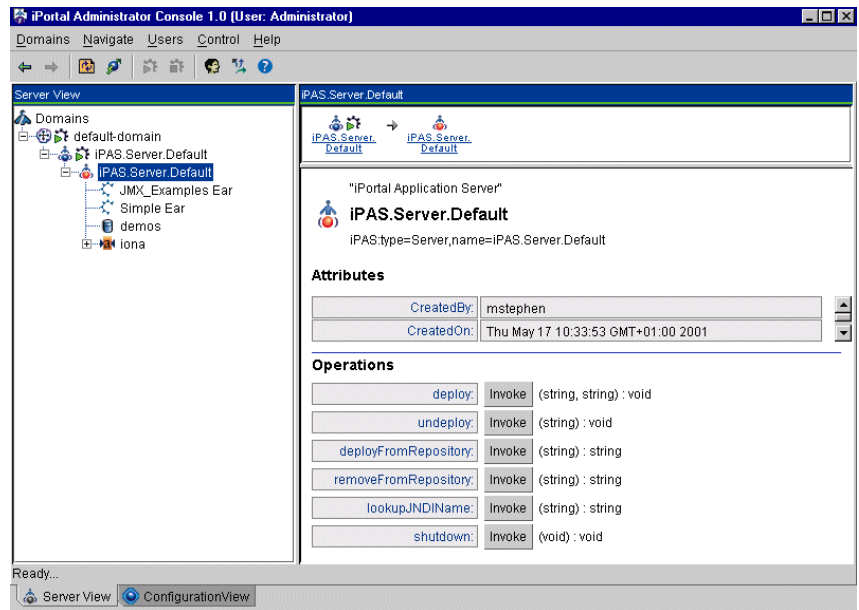


図 9: iPortal Administrator Console

iPortal Administrator Console の操作

概要 iPortal Administrator Console は一般的な Explorer のインターフェイスを使用するので、簡単に操作できます。

このセクションでは、iPortal Administrator Console のコンポーネントについて、およびこれらのコンポーネントを使用して iPortal Administrator Console の操作を行う方法について説明します。

コンポーネント iPortal Administrator Console の主要コンポーネントは、次のとおりです。

- ナビゲーション・ツリー
- 詳細ペイン
- 履歴表示
- ツールバー・アイコン

ナビゲーション・ツリー 分散アプリケーションの探索は、iPortal Administrator Console の左側にあるナビゲーション・ツリー（[図 10](#) を参照）から始めます。ナビゲーション・ツリーを使用して、目的の管理対象サーバを検索することができます。

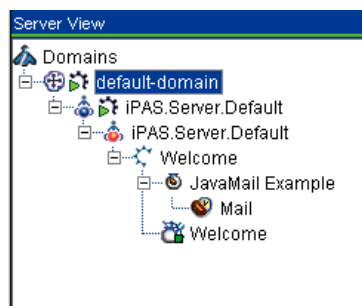


図 10: ナビゲーション・ツリー

ツリー・ブランチの展開

ツリー・ブランチを展開するには、左にある **+** アイコンをクリックするか、展開するブランチのアイコンをダブルクリックします。例えば、[図 10](#) では、**default-domain** アイコンをダブルクリックすることができます。

ツリー・ブランチの縮小

ツリー・ブランチを縮小するには、左にある **-** アイコンをクリックするか、展開したブランチのアイコンをダブルクリックします。例えば、[図 10](#) では、**default-domain** アイコンをダブルクリックすることができます。

全てのブランチの展開と縮小

ツリー上の全てのブランチを展開するには、メニュー・バーから **Navigate → Expand All** を選択します。ツリーの全てのブランチを縮小するには、メニュー・バーから **Navigate → Collapse All** を選択します。

サーバおよびドメインのステータスの表示

ナビゲーション・ツリーには、ドメインおよび管理対象サーバのステータスが表示されます。緑の三角はアクティブであることを示し、管理対象サーバは稼動しています。例えば、[図 10](#) で **default-domain** はアクティブです。

赤い四角は停止状態を示し、管理対象サーバは稼動していません。例えば、[図 11](#) で **default-domain** は非アクティブです。

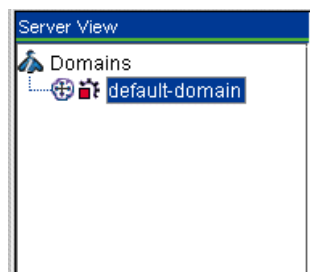


図 11: ナビゲーション・ツリーの非アクティブなドメイン

ツリー・ノードの
詳細の表示

iPortal Administrator Console ウィンドウの右側にある詳細ペイン（図 12 を参照）には、選択したツリー・ノードの詳細が表示されます。

選択したツリー・ノードの内容を表示するには、ナビゲーション・ツリーでノードをクリックします。これにより、右側の詳細ペインにノードの内容が表示されます。ツリーに子ノードが存在する場合は、ノードに含まれる子ノードのリストが表示されます。

管理対象サーバの
属性の表示

特定の管理対象サーバをさらにドリリングするには、詳細ペイン内のアイコンをクリックするか、**Attributes** テーブル内の名前をクリックします。

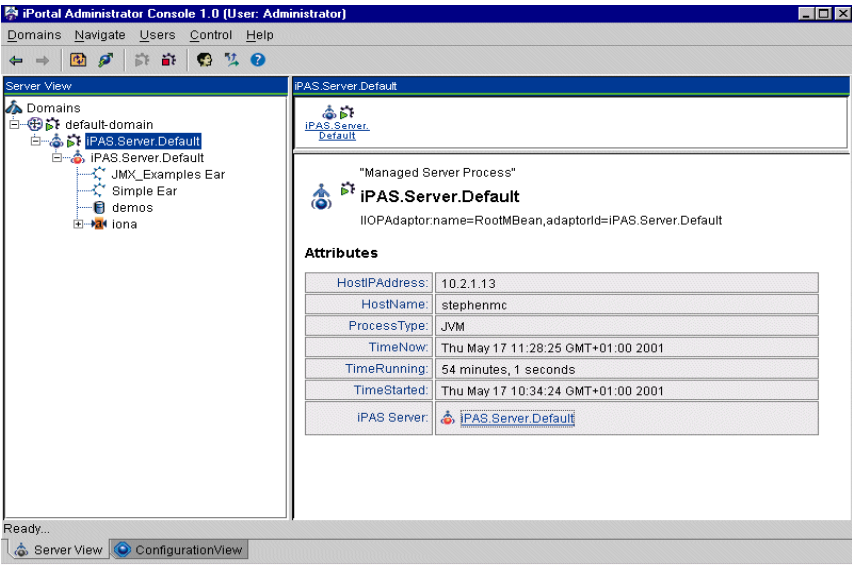


図 12: 詳細ペイン

ナビゲーションの 履歴表示

ナビゲーション・ツリーで管理対象サーバにドリリングすると、詳細ペインの上部にその履歴（図 13 を参照）が表示され、現在表示されている管理対象サーバへのパスを示します。

履歴表示は、ナビゲーション・ツリーで選択した管理対象サーバから始まります。



図 13: 履歴表示

ナビゲーションの方向

履歴にはパスが表示されますが、表示されたアイコンをクリックして、パス内の任意の地点に戻ることができます。

また、Web ブラウザのように、ツールバー上の戻る矢印または進む矢印のアイコンを使用して以前表示したビューに戻って動作を戻すことができます。あるいは、対応するメニュー・エントリ **Navigate → Back** および **Navigate → Forward** を使用できます。

注： 履歴は、**Server View** でのみ表示されます。

iPortal Administrator Console アイコン

概要 このセクションでは、次の iPortal Administrator Console アイコンについて説明します。


- ツールバー・アイコン
- ドメイン・アイコン
- 管理対象サーバ・アイコン
- ステータス・アイコン

ツールバーのアイコン 次は **Server View** のツールバー・ボタン内のアイコンの一覧です。

ツールバー・アイコン	説明
	Backward 前に表示したページに戻る。
	Forward 戻ったページから次に進む。
	Refresh 詳細ペイン を更新し、キャッシュを上書きする。
	Events Console 別のウィンドウに Events Console を表示する（使用方法については、 第 4 章 を参照）。
	Options Dialog Options ダイアログ・ボックスを表示する（使用方法については、 40 ページ の「 タイマー・オプションの設定 」を参照）。




ツールバー・アイコン	説明
	User Information Dialog User Information ダイアログ・ボックスを表示する（使用方法については、 第 5 章 を参照）。
	Start 管理対象サーバを起動する。
	Stop 管理対象サーバを停止する。
	Quick Overview Help 別のウィンドウにクイック・ヘルプを表示する。

ドメイン・アイコン 次はドメイン・アイコンの一覧です。



ドメイン・アイコン	説明
	ドメイン

管理対象サーバ・アイコン 次は **Server View** 内の管理対象サーバ・アイコンの一覧です。

管理対象サーバ・アイコン	説明
	iPortal Application Server の管理対象サーバ (赤)
	ネームスペース
	コンテナ
	EJB モジュール
	ステートレスまたはステートフルなセッション
	コンテナまたは Bean 管理されたエンティティ Bean
	Web モジュール
	サーブレット

管理対象サーバ・アイコン	説明
	データ・ソース
	リソース
	一般管理対象サーバ（青）

ステータス・アイコン 次は、管理対象サーバおよびドメインのステータスを表すアイコンの一覧です。

ドメイン・ステータス・アイコン	説明
	アクティブ
	非アクティブ

これらのアイコンは、他のアイコン（ドメイン・アイコンなど）と一緒に使用されます。

タイマー・オプションの設定

概要 iPortal Administrator Console は、管理サービスが常時最新の情報を表示するよう、情報更新のリクエストを定期的に送信します。iPortal Administrator Console にはこの機能の設定を行うためのタイマーがあり、これらのタイマーは、**Options** ダイアログ・ボックスから設定できます。

デフォルトのタイマー値は慎重に選択し、通常は変更しないでください。ただし、デフォルト値が必要条件を満たさなかった場合は、簡単に調整できます。このセクションでは、これらのタイマー設定を調整する方法について説明します。

タイマー・オプション iPortal Administrator は次のタイマー値を使用します。

Refresh Interval	iPortal Administrator Console に表示される情報を更新するリクエストを送信する頻度の指定。
Domains Polling Interval	監視される各ドメイン内の管理サービスをポーリングして、そのステータスを確認する頻度の指定。
Connection Timeout	リモート・オブジェクトが要求に応答しないと見なすまで iPortal Administrator Console が待機する時間を指定。管理サービス、管理対象サーバ、およびドメインに適用。

タイマー・オプションの表示 **Options** ダイアログ・ボックスを表示するには、ツールバーの **Options** ボタン（[図 14](#) を参照）をクリックします。



図 14: Options ボタン

また、メニュー・バーから **Domains**→**Options**→**Timers** を選択し、Timer Options ダイアログ・ボックス（[図 15](#) を参照）を表示できます。

タイマー値の設定 タイマー・オプション値を設定するには、次の手順を行います。

1. ツールバー内の **Options** ボタン (図 14 を参照) をクリックするか、メニュー・バーで **Domains**→**Options**→**Timers** の順に選択する。Timer Options ダイアログ・ボックス (図 15 を参照) が表示される。
2. 適切なフィールド (例えば **Refresh Interval** など) に値を入力するか、フィールドの右側にある上下方向の矢印を使用して値を変更する。
3. **Apply** をクリックして変更を適用するか、**OK** をクリックして変更を送信し **Options** ダイアログ・ボックスを閉じる。

変更を適用しないでダイアログ・ボックスを閉じるには、**Cancel** をクリックする。

注： 各タイマー値をデフォルト値 (推奨値) に戻すには、**Use Default Settings** ボタンをクリックします。

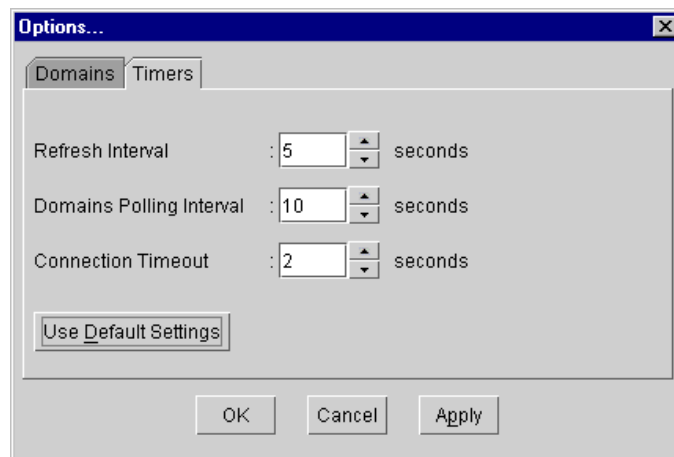


図 15: Options ダイアログ・ボックス

iPortal Administrator ヘルプの表示

概要 iPortal Administrator Console から **Help** メニューを選択するか、ツールバー上のボタン（[図 16](#)を参照）をクリックして、オンライン・ヘルプにアクセスできます。



図 16: Help ボタン

ヘルプ表示の種類 iPortal Administrator ヘルプ表示には、次の 2 つの種類があります。.

Quick Overview	iPortal Administrator Console についての最も重要な情報の概要を 1 箇所に表示する。 Quick Overview にアクセスするには、ツールバー上のアイコンをクリックするか、メイン・メニューから Help→Quick Overview を選択する。Quick Overview は iPortal Administrator Console 内のポップアップ・ウィンドウに表示される。
About	About は iPortal Administrator Console のバージョン、およびその他の重要な情報を表示。About にアクセスするには、メイン・メニューから Help→About を選択する。

アプリケーション管理

本章では、iPortal Administrator Console を利用してドメイン内のサーバ・アプリケーションを管理する方法について説明します。また、iPortal Administrator Console の Server View を使用してドメインおよびサーバを監視ならびに制御する方法について例を挙げて説明します。

iPortal Administrator Console の Server View には、ドメイン内の分散アプリケーションの管理可能なコンポーネントが全て表示されます。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ [ドメインの管理](#) 44 ページ
- ・ [管理対象サーバの監視](#) 47 ページ
- ・ [ステータスの監視](#) 50 ページ
- ・ [管理対象サーバの制御](#) 52 ページ

ドメインの管理

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Console を利用してドメインを管理する方法、ドメインの表示、追加、および削除の方法について説明します。図 17 は iPortal Administrator Console の Server View 表示例です。

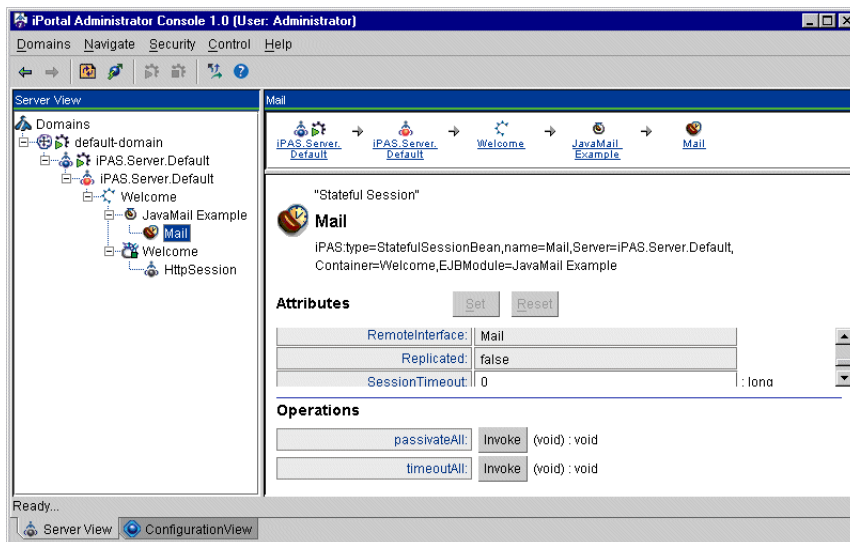


図 17: iPortal Administrator Server の Server View 表示例

ドメインについて ドメインとは、一定の物理的な場所において動作する管理対象サーバ・プロセスの抽象的な集合です。ドメインを使用し、同じ LAN 内、同じ建物内、同じ地区内にあるサーバ、またはその他のあらゆる論理的方法でサーバをグループ化して、サーバを説明します。

各ドメインには複数の管理対象サーバを包含することができます。管理対象サーバには、EJB アプリケーション・サーバ、CORBA サーバ、またはその他の登録済プロセスのインスタンスが含まれます。

ナビゲーション・ツリーには、ドメインおよび管理対象サーバのみが表示され、管理対象サーバにドリリングして得られるさらに詳しい情報は詳細ペインに表示されます。詳細は、47 ページの「管理対象サーバの監視」を参照してください。

注： iPortal Administrator ドメインは、iPortal Application Server または Orbix 2000 のコンフィギュレーション・ドメインにあたります。

ドメインの選択 **Server View** を使用する前に、管理対象となるドメインを選択する必要があります。ローカル・システム上の **default-domain** はデフォルトで監視されます。

監視対象ドメインの表示 コンソールによって現在監視されているドメインのリストを表示するには、メイン・メニューから **Domains**→**Select** を選択し、**Options** ダイアログ・ボックス (46 ページの図 18 を参照) を表示します。

このダイアログ・ボックスの **Monitored Domains** リストには現在監視されているドメインが表示され、**Available Domains** リストには追加可能なドメインが表示されます。

監視対象ドメインの追加 監視対象ドメインのリストにドメインを追加するには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Domains**→**Select** を選択し、Domain Options ダイアログ・ボックス (図 18 を参照) を表示する。
2. ダイアログ・ボックスの左側にある **Available Domains** リストからドメイン名を選択する。
3. **Add** ボタンをクリックする。
4. **Apply** をクリックして変更を続行するか、あるいは **OK** をクリックして変更を適用し、ダイアログ・ボックスを閉じる。

Options
ダイアログ・ボックス

図 18 に **Options** ダイアログ・ボックスの **Domains** タブを示します。

Timers タブの使用についての詳細は、40 ページの「タイマー・オプションの設定」を参照してください。

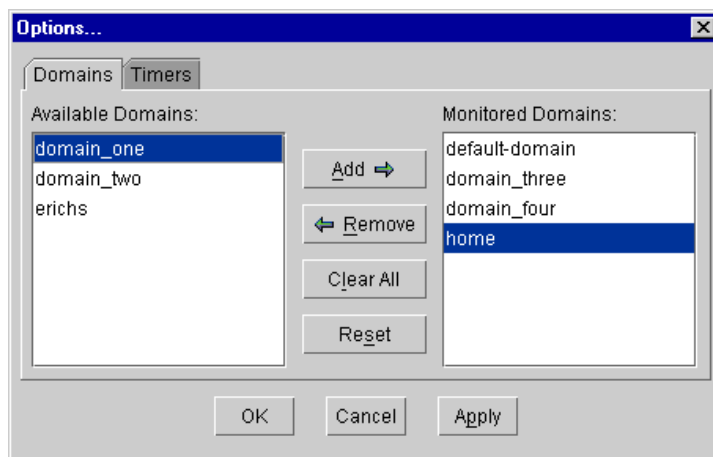


図 18: Options ダイアログ・ボックス

監視対象ドメインの削除

ドメインを監視対象ドメインのリストから削除するには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Domains**→**Select** を選択し、Domain Options ダイアログ・ボックス (図 18 を参照) を表示する。
2. ダイアログ・ボックスの右側にある **Monitored Domains** リストからドメイン名を選択する。
3. **Remove** ボタンをクリックする。
4. **Apply** をクリックして変更を続行します。または、**OK** をクリックして変更を適用し、ダイアログ・ボックスを閉じる。

監視対象ドメイン全てを削除するには、**Clear All** ボタンをクリックする。

注: 変更をシステムに適用しないでダイアログ・ボックスを閉じるには、**Cancel** をクリックします。最後に **Apply** をクリックしたときの状態に戻すには、**Reset** をクリックします。

その他の監視可能な ドメインの設定

Options ダイアログ・ボックスの **Available Domains** リストに、`install-dir/ipas3/etc/domains` ディレクトリに格納されているコンフィギュレーション・ファイルのリストが表示されます。

追加ドメインの設定についての詳細は、『Orbix 2000 プログラマーズ・ガイド』または『Orbix 2000 管理者ガイド』を参照してください。

管理対象サーバの監視

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Console を利用して管理対象サーバを監視する方法について説明します。管理対象サーバの概念と、管理対象サーバおよびその属性を iPortal Administrator Console **Server View** に表示する方法について説明します。

管理対象サーバ 管理対象サーバは、ホスト上で移動中の、またはホスト上で実行する準備のできた物理的なプロセスです。管理対象サーバは、EJB アプリケーション・サーバまたはその他の登録されたプロセスのインスタンスです。ドメインには、任意のタイプの管理対象サーバをいくつでも含めることができます。

管理機能の インストールメンテーション

サーバ・プロセスにコアとなる管理機能のインストールメンテーションが施されている場合、これは管理対象サーバになります。インストールメンテーションとは、JMX (Java Management Extensions) で使用される用語で、特定のサーバ・コンポーネントの管理を可能にするためのコードをサーバ・コードに追加する操作を指します。

IONA 製品には既にインストールメンテーションが施されているため、管理者はインストールメンテーションを行う必要はありません。『iPortal Application Server 開発者ガイド』には、プログラマの方々を対象とした、インストールメンテーションによるサーバ・アプリケーションのカスタマイズに関する説明が記載されています。

MBeans MBean は JMX で使用される用語で、一般の管理可能なオブジェクト、**管理対象ビーン (Managed Bean)** を表します。MBean は一意の名前で識別され、多数の管理可能な属性とオペレーションを持つことができます。iPortal Administrator は、全ての管理対象サーバに対して MBean という用語を使用します。

iPortal Administrator
Server View

図 17 は iPortal Administrator Console の **Server View** タブ内の管理対象サーバを示します。

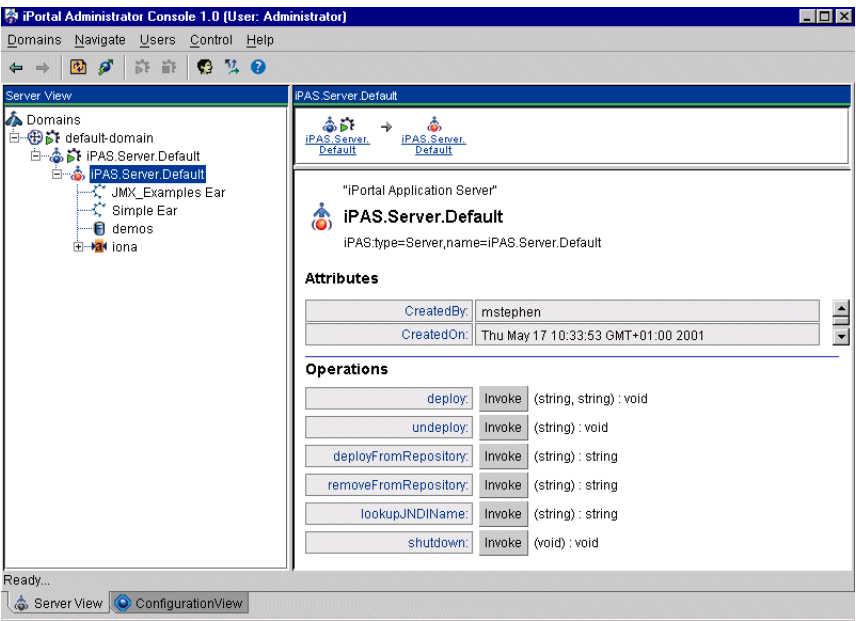


図 19: 管理対象サーバの表示

Configuration View タブの使用についての詳細は、[第 6 章](#)を参照してください。

管理対象サーバの表示

概要 管理対象サーバを監視するには、まずナビゲーション・ツリーで監視するサーバを選択します。図 19 はデフォルト状態の iPortal Application Server の表示例です。

root MBean 最初は、詳細ペインの上部に表示されている履歴には、管理対象サーバの **root MBean** を表すアイコンが 1 つ表示されています。

root MBean は通常、管理対象サーバと同じ名前を持ち、サーバへのドリリングを行うための開始点となります (図 19 では **IPAS.Server.Default**)。

管理対象サーバの属性

画面の右側にある詳細ペインには、root MBean によって表される管理対象サーバの属性が表示されます。セルの背景がグレーの属性値は読み取り専用です。

背景が白い属性値、またはドロップダウン・リストによる値の選択が可能な属性値は変更できます。例えば図 19 では、**SessionTimeout** 属性が変更可能となっています。詳細は、53 ページの「属性の設定」を参照してください。

管理対象サーバへのドリリング

関連アイコンとハイパーリンクで表される属性は、別の管理対象エンティティへの参照です。例えば図 20 は、**Mail** ステートフル・セッション・ビーンへの参照を示します。参照する管理対象エンティティを開くには、アイコンまたはハイパーリンクをクリックします。このことを**管理対象サーバへのドリリング**といいます。

管理対象サーバにドリリングを行うと、詳細ペインに管理対象となる各エンティティの属性と履歴表示が表示されます。

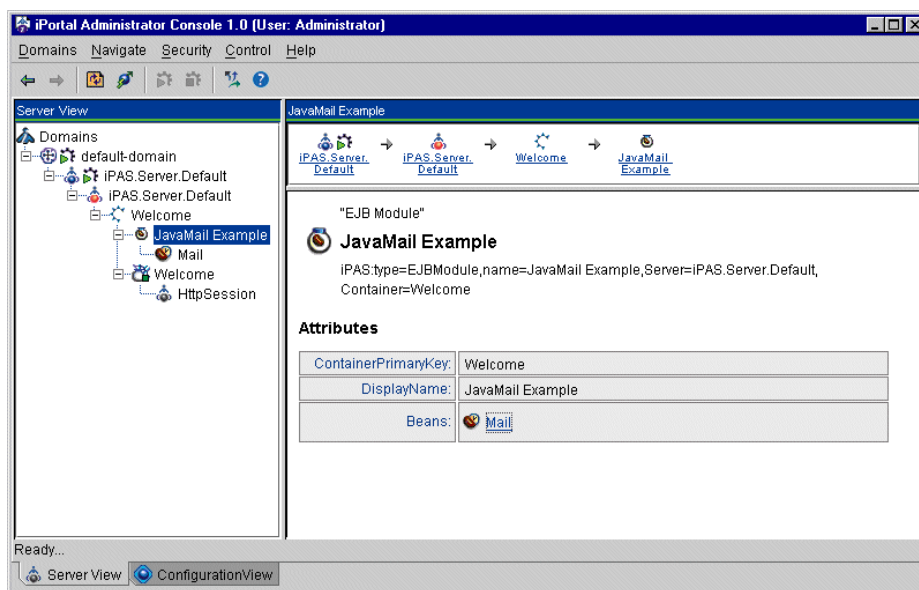


図 20: 管理対象サーバへのドリリング

ステータスの監視

概要 システム監視における最も重要なポイントは、システム・コンポーネントのステータス（動作状態）の監視です。ステータスの監視には、ドメインのステータスの監視、管理対象サーバのステータスの監視、および管理対象サーバの個々のステータスの監視が含まれます。

個々の管理対象サーバのステータスは、ユーザによるインストールメンテーションにより表現されます。例えば、特定の MBean にステータス属性を設定できます。

ドメインのステータスの表示 ドメインのステータスは、ナビゲーション・ツリーに表示できます。監視されるそれぞれのドメインには、ナビゲーション・ツリー内のドメイン・アイコンの隣にステータス・インジケータ・アイコンがあります。表 1 はドメイン・ステータス・アイコンについての説明です。



アイコン	説明
	ドメインが監視中であり、コンソールがドメインの管理サービスとの接続が確立されていることを示す。ドメイン内のサーバのステータスは示さない。
	ドメインの管理サービスとの接続が確立しなかったことを示す。理由として、管理サービスが非アクティブであったこと、またはその他の通信問題（物理的な接続問題など）が考えられる。

表 1: ドメイン・ステータス・アイコン

管理対象サーバの
ステータスの表示

管理対象サーバのステータスは、ナビゲーション・ツリー、履歴表示、および詳細ペインに表示できます。

ナビゲーション・ツリー内の各管理対象サーバのアイコンの隣には、ステータス・インジケータがあります。管理対象サーバのステータスは、root MBean、履歴表示、詳細ペイン内でも同様なアイコンで表されます。[表 2](#) は管理対象サーバのステータス・アイコンについての説明です。



アイコン	説明
	サーバはアクティブで、ホスト上のプロセスとして稼動中。
	サーバは非アクティブで、サーバを実行するプロセスは無い。

表 2: 管理対象サーバのステータス・アイコン

管理対象サーバの制御

概要 管理対象サーバの制御には、管理対象サーバの起動、停止、属性の変更、ならびに管理対象サーバ上でのオペレーションの呼び出しなどが含まれます。

管理対象サーバの起動 管理対象サーバを起動するには、次の手順を行います。

1. ナビゲーション・ツリーで管理対象サーバを選択する。
2. **Start** ボタンをクリックする。



またはメニューバーから **Control** → **Start** を選択する。

管理対象サーバの停止 管理対象サーバを停止するには、次の手順を行います。

1. ナビゲーション・ツリーで管理対象サーバを選択する。
2. **Stop** ボタンをクリックする。



またはメニューバーから **Control** → **Stop** を選択する。

管理対象サーバの属性とオペレーションの制御

概要 このセクションでは、管理対象サーバの属性の設定およびオペレーションの起動方法について説明します。

管理対象サーバの属性 管理対象サーバの属性は、その属性が表示されている詳細ペインから設定することができます（図 21 を参照）。背景が白い属性値とグレーのドロップダウン・リストで指定する属性値は変更できます。属性値の右側に、データ・タイプが示されています。

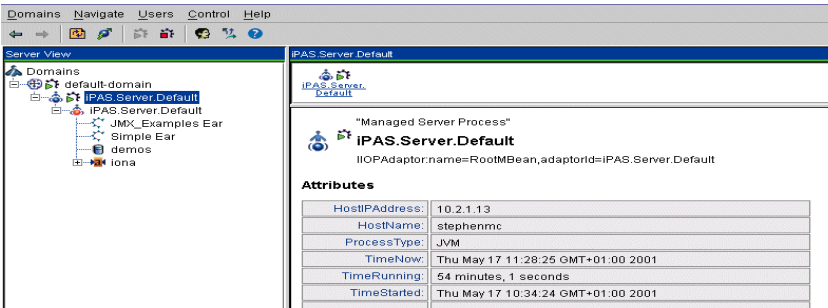


図 21: 属性の例

- 属性の設定** 属性を設定するには、次の手順を行います。
1. 詳細ペインの右側にある値フィールドを選択する。
 2. テキスト・フィールドに新しい値を入力する。
 3. 使用可能な値が限られている属性は、ドロップダウン・リストから値を選択する。
 4. **Set** ボタンをクリックして変更を適用する。複数の属性値を変更して一度に適用可能。

変更した値を元に戻すには、**Reset** ボタンをクリックする。

管理対象サーバの オペレーション

管理対象サーバは、管理システムに対し複数のオペレーションを公開できます。これらのオペレーションはコンソールから呼び出すことができます。オペレーションについての次の情報は、詳細ペインに表示されます。

- オペレーション名
- **Invoke** ボタン
- 入力パラメータ・タイプ
- リターン・パラメータ・タイプ

オペレーションの例

図 22 に、デフォルトの iPortal Application Server (**iPAS.Server.Default**) のオペレーションの例を示します。例えば、**lookupJNDIoperation()** オペレーションは JNDI 名を取り、対応するオブジェクト・クラス名を返します。



図 22: オペレーションの例

オペレーションの呼び出し

オペレーションを呼び出すには、次の手順を行います。

1. 詳細ペインの **Invoke** ボタンをクリックし、**Invoking Operation** ダイアログ・ボックスを表示する。**lookupJNDIoperation()** オペレーションの場合、図 23 のようなダイアログ・ボックスが表示される。
2. **Input Parameters** テキスト・ボックスに選択したパラメータを入力する。図 23 は **iona:cloudscape** JNDI 名の単一パラメータを示す。オペレーションには複数のパラメータを選択で、またパラメータを選択しなくても構わない。
3. **Invoking Operation** ダイアログ・ボックスの **Invoke** ボタンをクリックする。ダイアログ・ボックスの下部に、返り値が表示される。図 23 は **iona:cloudscape** JNDI 名のクラス名を示す。
4. **Close** ボタンをクリックし、ダイアログ・ボックスを閉じる。

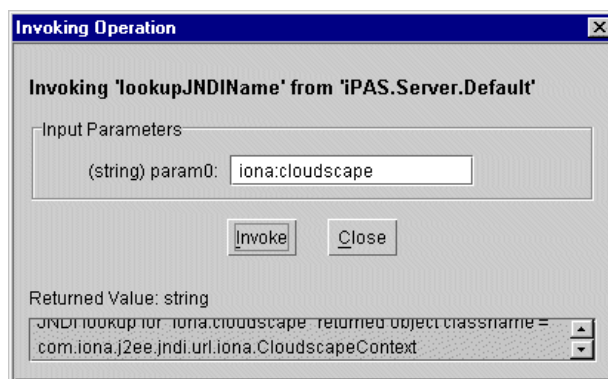


図 23: オペレーションの起動

書込みオペレーション

図 23 に示すオペレーションの例は、読取り専用オペレーションです。オペレーションがサーバの属性値を変更する場合、詳細ペインが自動的に更新され、新しい属性値が表示されます。

イベントの監視

本章では、iPortal Administrator Console の Events Console を使用してドメイン内のイベントを監視する方法について説明します。Events Console を起動する方法、ドメイン内のイベントを表示する方法、および必要に応じて Events Console 表示をカスタマイズする方法について説明します。

iPortal Administrator Web Console の **Events Console** を使用して、管理サーバによって生成されたイベントを表示できます。イベント・コンソールには、更新されたイベント情報がドメインごとに、履歴順で表示されます。イベントはドメインごとに、履歴順に表示されます。また、イベントの重要度をカスタマイズし、フィルタを適用することにより一定の重要度以上のイベントのみを表示することもできます。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ Events Console の起動 58 ページ
- ・ 表示オプションの設定 60 ページ
- ・ イベントの詳細表示 62 ページ
- ・ Events Console のカスタマイズ 63 ページ

Events Console の起動

概要 このセクションでは、イベント・ボタンまたはメニューバーを使用して Events Console を起動する方法、および表示するドメインを選択する方法について説明します。


イベント・ボタンの使用 Events Console を起動するには、iPortal Administrator Console ツールバーの Events ボタンをクリックします (図 24 を参照)。



図 24: イベント・ボタン

メニューバーの使用 メニューバーから Domains → Events を選択して Events Console を起動することもできます (図 25 を参照)。イベントは常に、ドメインごとに表示されます。図 25 は default-domain のイベントを示します。

ドメインの選択 ドメインを選択するには、Events Console の上部にある Viewing Events from Domain ドロップダウン・リストをクリックします。選択したドメインのイベントが、新しいものから順にリストに表示されています。

Events Console の例  図 25 は Events Console の例です。管理されたサーバ全てに共通な標準の JMXmbean.registered イベント、およびサンプル・アプリケーション iBank からのイベントが表示されています。このサンプル・アプリケーションは、銀行のユーザ・ログインに失敗すると、ManagediBankAuthorisation.loginFailed イベントを送信します。

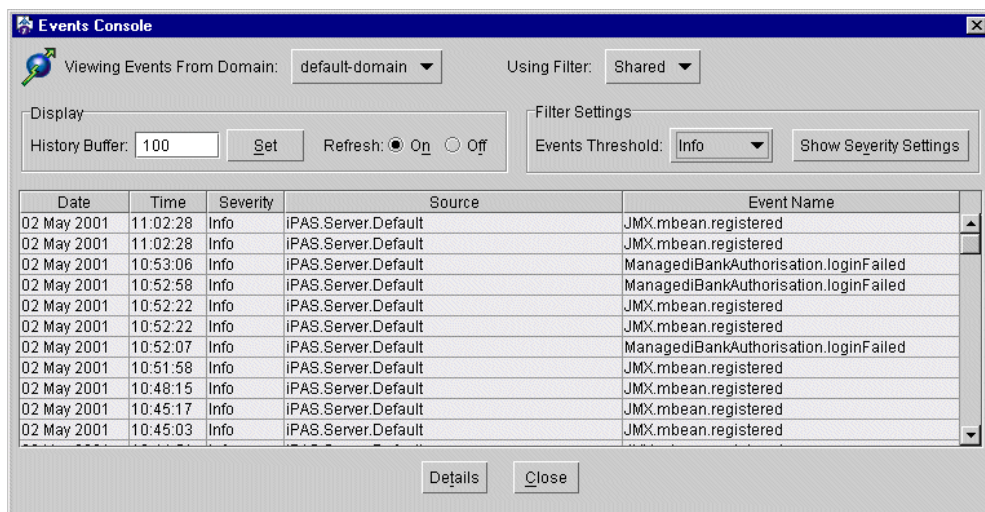



図 25: Events Console

表示オプションの設定

概要 このセクションでは、選択したドメインのイベントの表示オプションを設定する方法について説明します。次のオプションを設定できます。

- 表示するイベントの数
- イベントのポーリング
- イベントの重要度
- イベント・フィルタ

表示するイベント数の設定 ドメインの管理サービスから取得するイベントの最大数を設定するには、次の手順を行います。

1. 画面の左上にある **Display** ボックス内の **History Buffer** テキスト・ボックスに値を入力する。
2. この値は、イベント・リストに表示するイベントの数を表す。例えば、 25 ではこの値はデフォルトの 100 に設定されている。
3. **Set** ボタンをクリックする。

イベント表示の更新 **Refresh** ボタンを使用して、イベント表示の自動更新機能のオン／オフ切り替えを行います。多数のイベントを作成した際に、リストが続けざまに更新されるのを避けたい場合、イベント表示の自動更新機能をオフにします。

イベント表示更新機能の設定 ドメインのイベント表示の自動更新機能のオン／オフ切り替えを行うためには、画面の左上にある **Display** ボックス内の **On** または **Off** ボタンをクリックします。

デフォルトでは **On** に設定されています。

表示するイベントの重要度の設定 **Event Threshold** 値を設定することにより、リストに表示するイベントの重要度の最低レベルを指定することができます。イベントの重要度には、次の 4 つのレベルがあります。

- Critical
- Error
- Warning
- Info

Critical は最高レベルで、Info は最低レベルです。

イベントの重要度の設定

表示されるイベントの最低レベルの重要度を設定するには、画面の右上にある **Event Threshold** ドロップダウン・リストを使用します。

デフォルトでは **Info** に設定されており、全ての重要度レベルのイベントが表示されます。

イベント・フィルタ

イベント・フィルタには、**Shared**（共用）ならびに **Private**（プライベート）の 2 種類があります。

Shared フィルタは、iPortal Administrator Console の全てのインスタンスに適用され、**Private** フィルタは、iPortal Administrator Console の個々のインスタンスに別々に適用されます。

Shared フィルタ

Shared フィルタを使用すると、選択されたドメインのオプション設定は iPortal Administrator Console の全てのインスタンスに適用されます。iPortal Administrator Web Console はアクセスするドメインに **Shared** フィルタを使用します。

Private フィルタ

Private フィルタを使用すると、選択されたドメインのオプション設定は iPortal Administrator Console の単一のインスタンスのみに適用されます。iPortal Administrator Web Console ではプライベート・フィルタは使用できません。

フィルタの設定についての詳細は、63 ページの「Events Console のカスタマイズ」を参照してください。

タイマー・オプション

イベント表示は設定した間隔で自動的に更新されます。更新が行われる間隔や接続のタイムアウトなど、タイマー・オプションの設定についての詳細は、第 2 章を参照してください。

イベントの詳細表示

概要 イベント表示一覧には、各イベントに対して次の情報が表示されます。

- イベントが発生した日付と時刻
- イベントの重要度
- イベントを作成したエージェント
- イベント名

このセクションではイベントの包括的な詳細を表示する方法について説明します。

Event Details ダイアログ・ボックス

特定のイベントの包括的な詳細を表示するには、任意のイベントをダブルクリックするか、イベントを選択して **Details** ボタンをクリックします。**Event Details** ダイアログ・ボックスに、イベントの完全な詳細が表示されます (図 26 を参照)。

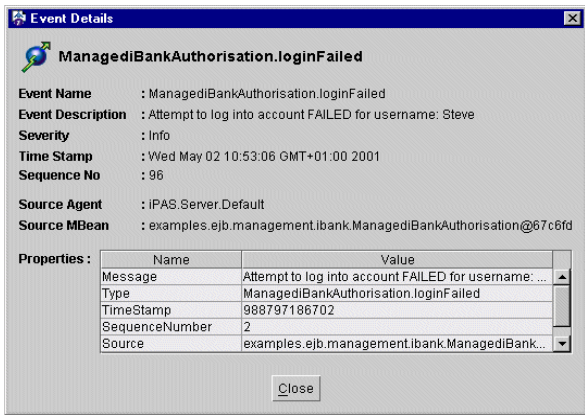


図 26: Event Details ダイアログ・ボックス

イベントの例

図 26 はサンプル・アプリケーション iBank のイベント詳細表示例です。このサンプル・アプリケーションは、銀行のユーザ・ログインに失敗すると、**ManagediBankAuthorisation.loginFailed** イベントを送信します。

Events Console のカスタマイズ

概要 **Events Console** よりフィルタをカスタマイズし、特定のイベントのみを表示することができます。このセクションでは、イベント・フィルタの概要、イベントの重要度とフィルタの設定方法、およびイベント一覧の表示色の変更方法について説明します。

イベント・フィルタ 各 **Events Console** は、各ドメインの管理サービスに、一意なフィルタを登録します。これらのフィルタは **Private フィルタ** と呼びます。また、全てのイベント・コンソールに共通なフィルタを使用することもできます。これは **Shared フィルタ** と呼びます。

注： **Shared フィルタ** は注意してカスタマイズしてください。**Shared フィルタ** の設定は、同じドメインにアクセスする全てのコンソールに反映されます。

フィルタを使用して次の設定を行います。

- 個々のイベントの重要度、またはイベントのグループの重要度
- 表示するイベントの重要度

イベントの重要度の設定 **Events Console** でイベントの重要度を設定するには、次の手順を行います。

1. **Viewing Events from Domain** ドロップダウン・リストからドメインを選択する。
2. **Using Filter** ドロップダウン・リストから、フィルタ (**Private** または **Shared**) を選択する。**Shared** フィルタを選択すると、選択したドメインのフィルタの設定を変更する。これらの設定は、全てのイベント・コンソールに表示される。
3. **Show Severity Settings** ボタンをクリックして **Severity Assignment** セクションを展開表示する (65 ページの図 27 を参照)。
4. 表示されたイベントのリストで重要度を割り当てるイベントを選択し、**Add** ボタンをクリックする。イベントが **Severity Assignment** リストに追加される。

5. リストでイベントを選択せずに **Add** ボタンをクリックすると、**Severity Assignment** リストに空の行が作成される。
6. 必要に応じて、**Event Type** フィールドで表示されたイベント名を変更したり、新しいイベント名を追加する。
7. イベントの **Severity** フィールドをクリックして、ドロップダウン・リストから重要度 (**Info**、**Warning**、**Error**、**Critical**) を選択する。
8. 必要に応じて、手順 4 から手順 6 を繰り返す。
9. **Apply** ボタンをクリックして変更を適用する。

イベントのグループの 重要度の設定

Events Console を使用して、イベントのグループにイベントの重要度を設定することもできます。例えば、**com.acme** という名前のイベントに、デフォルトで重要度 **Warning** を設定すると、**com.acme** で始まる全てのイベント（例えば、**com.acme.newaccount**、**com.acme.addcustomer**）に重要度 **Warning** が自動的に設定されます。

ただし、個々のイベントに設定した重要度は、グループとして設定されている重要度よりも優先されます。例えば、**com.acme** グループに重要度 **Warning** が割り当てられていても、**com.acme.invalidlogin** イベントに特定の重要度 **Error** を割り当てると、**com.acme.invalidlogin** イベントの重要度は **Error** になります。

イベントの重要度の例 **図 27** は、**Events Console** でイベントの重要度が割り当てられたイベントの例を示します。ここでは **ManagedBankAuthorisation.loginFailed** イベントにイベント重要度 **Error** が割り当てられており、このイベントがユーザ・ログインに失敗した場合、イベントからの通知が送信されます。

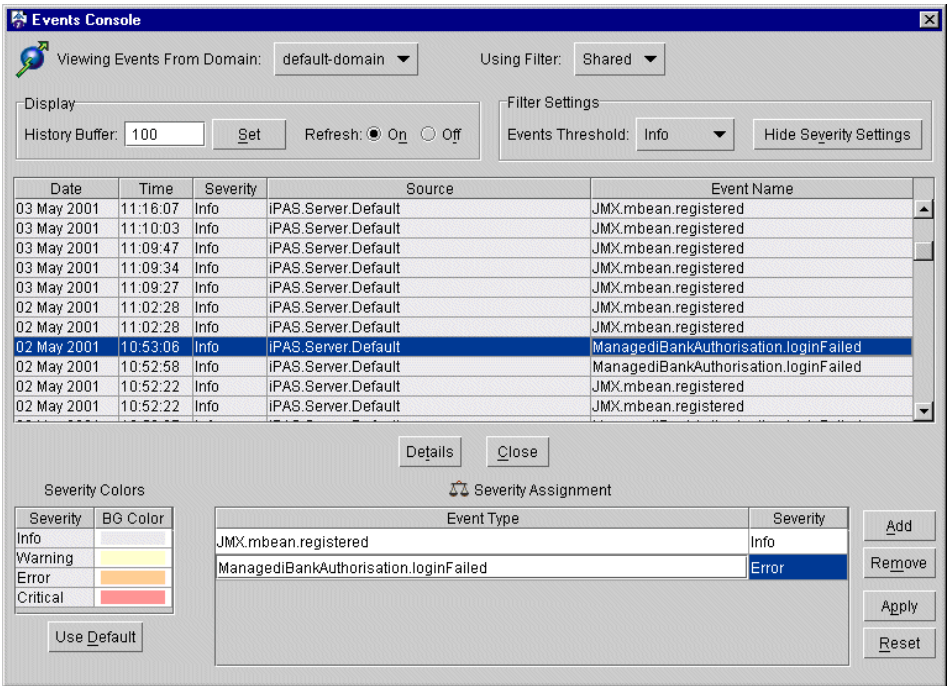


図 27: Events Console の Severity Assignment リスト

設定された
重要度の取消し

イベントの重要度設定を取り消すには、次の手順を行います。

1. **Severity Assignment** リストからイベントを選択する。
2. **Remove** ボタンをクリックする。削除したイベントを元に戻すには、**Reset** ボタンをクリックする。これにより、最後に削除したイベントが **Severity Assignment** リストに復元される。
3. **Apply** をクリックして変更を適用する。

イベントのフィルタリング

特定の重要度以上のイベントのみを表示したい場合、**Events Threshold** を設定して一定の重要度以上のイベントのみを表示するようにできます。**Events Threshold** には、表示するイベントの最低重要度を指定します。

イベント・リストに表示するイベントの最低重要度を設定するには、画面の右上にある **Event Threshold** ドロップダウン・リストを使用します。

デフォルトでは **Info** に設定されており、イベント重要度の全てのレベルが表示されます。

注： この設定はイベントを破棄するものではなく、その表示を行わないようにするだけのものです。設定値よりも重要度の低いイベントに関する情報は、必要に応じて表示することが可能です。

また、管理サービスから取得するイベントの最大数を、**History Buffer** に設定して保存することが可能です。

イベント表示のカスタマイズ

Events Console では、イベントの重要度別にイベント・リストの背景の表示色を指定できます。イベント・リストの背景の表示色をカスタマイズするには、次の手順を行います。

1. **Events Console** の **Severity Colors** セクションで **BG Color** フィールドをクリックし、**Color Chooser** ダイアログ・ボックスを表示する（図 28 を参照）。
2. **Color Chooser** から色を選択する。
3. **OK** をクリックして設定を適用する。

注： 色の設定はローカル・コンソールのみ適用されます。

Color Chooser の例 図 28 は Color Chooser ダイアログ・ボックスの例です。

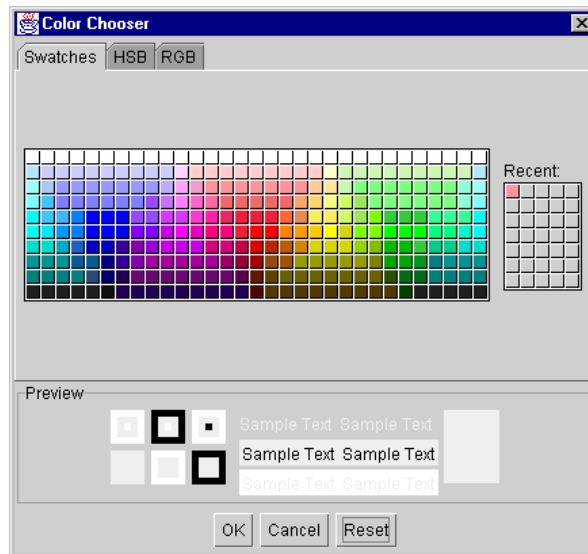


図 28: Color Chooser ダイアログ・ボックス

ユーザ・ロールの管理

本章では、iPortal Administrator Console を使用してユーザ・ロール情報を管理する方法について説明します。ユーザ・ロールおよびログイン・パスワードの管理、ユーザ・ロール割当ての変更、および iPortal Application Server デプロイメントの保護を行う方法について説明します。

iPortal Administrator Console を使用すると、全てのユーザ・ロール情報を管理できます。ユーザ・ロール情報は、iPortal Administrator Console の **Security** メニューを使用して管理します。iPortal Administrator Web Console を使用してユーザ・ロール情報を管理することはできません。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ iPortal Administrator ユーザ・ログインおよびユーザ・ロール ... 70 ページ
- ・ 新規ユーザの追加 74 ページ
- ・ ユーザ・ロール割当ての変更 76 ページ
- ・ ユーザの削除 78 ページ
- ・ 忘れたパスワードの管理 79 ページ
- ・ デプロイメントのセキュリティ保全 81 ページ

iPortal Administrator

ユーザ・ログインおよびユーザ・ロール

概要 iPortal Administrator を使用すると、デプロイされたアプリケーションの管理を広範囲にわたって制御できます。そのため、iPortal Administrator を使用できるユーザ、および各ユーザに許可する操作を指定することが重要です。このセクションでは、iPortal Administrator ユーザ・ログインおよびユーザ・ロールについて説明します。

ユーザ・ログイン 全てのユーザは iPortal Administrator の起動時にユーザ名とパスワードを入力してログインする必要があります。iPortal Administrator Console または iPortal Administrator Web Console に初めてログインするとき、新しいパスワードを指定するように指示されます (図 29 を参照)。

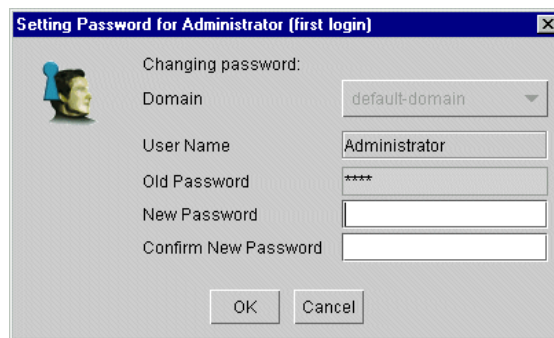


図 29: Administrator パスワードの設定

他人に推測されるようなパスワードは避け、指定したパスワードは忘れたり無くしたりしないように注意してください。

その他の情報 iPortal Administrator Console へのログインについての詳細は、[第 2 章](#)を参照してください。iPortal Administrator Web Console へのログインについての詳細は、[第 7 章](#)を参照してください。

iPortal Administrator ユーザ・ロール	各 iPortal Administrator ユーザには 1 つ以上のユーザ・ロール（ユーザの権限）が割り当てられます。ユーザ・ロールによって、特定のオペレーションを実行するユーザの権限が決めます。例えば、新規ユーザの追加登録や既存ユーザのロール割り当て変更などは管理者のロールを持つものだけが行うことができます。
----------------------------------	--

ユーザ・ロールの種類	iPortal Application Server で使用できるユーザ・ロールは、次のとおりです。
------------	--

- iPAS Observer
 - iPAS Operator
 - iPAS Administrator
-

iPAS Observer	Observer は、全ての iPortal Application Server およびアプリケーションのインストールメンテーションを見ることができますが、その属性の設定やメソッドの起動を行うことはできません。Observer はサーバをシャット・ダウンできません。
---------------	--

iPAS Operator	Operator は、全ての iPortal Application Server およびアプリケーションのインストールメンテーションを見ることができ、またその属性の設定やメソッドの起動を行うことができます。Operator はサーバをシャット・ダウンできません。
---------------	--

iPAS Administrator	Administrator は、Operator の権限に加え、新規ユーザの作成、ユーザの削除、ユーザに割り当てられたロールの変更を行うことができます。Administrator はまた、サーバをシャット・ダウンできます。
--------------------	---

ログイン ID の変更	iPortal Administrator Console では、ユーザは一旦ログインした後、ID を変更することができます。（ID の変更を希望しない場合、この操作は必要ありません）
-------------	--

ログイン ID を変更するには、次の手順を行います。

1. iPortal Administrator メイン・メニューから **Security** → **User Information** を選択するか、ツールバーの **User Information** ボタンをクリックする。
2. **User Information** ダイアログ・ボックスが表示される（図 30 を参照）。
3. **User Information** ダイアログ・ボックスの **Change Login** ボタンをクリックし、**Change Login** ダイアログ・ボックスを表示する（図 31 を参照）。

4. テキスト・ボックスに新しいユーザ名とパスワードを入力する。
5. **OK** ボタンをクリックする。

User Information ダイアログ・ボックス

図 30 に **User Information** ダイアログ・ボックスを示します。

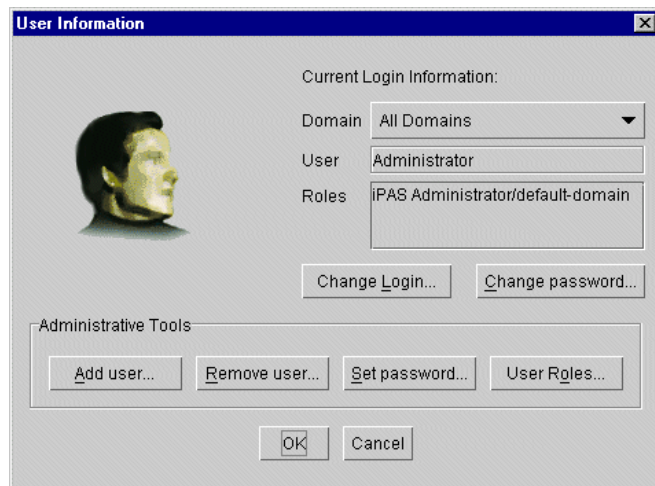


図 30: User Information ダイアログ・ボックス

複数ドメイン用の ユーザ情報

ユーザ・ロールおよびユーザ・ログインの情報は、iPortal Administrator 管理サービスによって保管されます。複数のコンフィギュレーション・ドメインを持つ iPortal Application Server の場合、各ドメインに対して別々の管理サービスが割り当てられます。これらの各管理サービスは、固有のユーザ・ロールおよびユーザ・ログイン情報を保管します。

複数ドメインの管理

iPortal Administrator へのログイン時に、ログイン先のドメインを問われます。ほとんどのユーザは、デフォルトのドメインまたは全てのドメインを選択します。

iPortal Administrator の全てのユーザ管理オペレーションは、ユーザがログインした現在のドメイン、および **Domains** ドロップダウン・リストで選択したドメインに適用できます (図 31 を参照)。

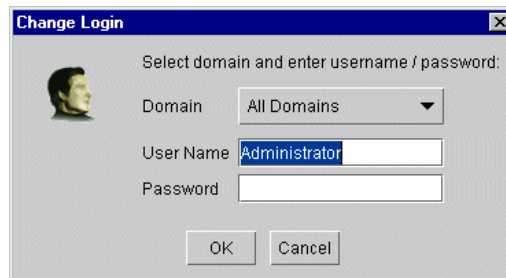


図 31: Change Login ダイアログ・ボックス

注： デプロイメントのセキュリティ保全のため、ログインしたままの iPortal Administrator Console または Web Console 端末を放置しないでください。

新規ユーザの追加

概要 このセクションでは、iPortal Administrator ユーザのリストに新規ユーザを追加する方法について説明します。新規ユーザを追加するには、Administrator 権限でログインする必要があります。

新規ユーザの追加 新規ユーザを追加するには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Security** → **Add User** を選択するか、**User Information** ダイアログ・ボックスの **Add user** ボタン (図 30 を参照) をクリックする。
2. **Create a New User** ダイアログ・ボックスが表示される (図 32 を参照)。
3. **User Name** テキスト・ボックスに新しいユーザ名を **Password** テキスト・ボックスに新しいパスワードを入力する。
(ユーザ名およびパスワードには英数字を使用。)
4. **Available Roles** ボックスから、新規ユーザのユーザ・ロールを選択する。ユーザ・ロールについての詳細は、71 ページの「iPortal Administrator ユーザ・ロール」を参照。
5. 右方向の矢印をクリックして、ユーザ・ロールを割り当てる。ユーザ・ロールが **Member Of** ボックスに表示される。
6. **OK** ボタンをクリックする。

Create New User ダイアログ・ボックス

図 32 は **Create New User** ダイアログ・ボックスです。

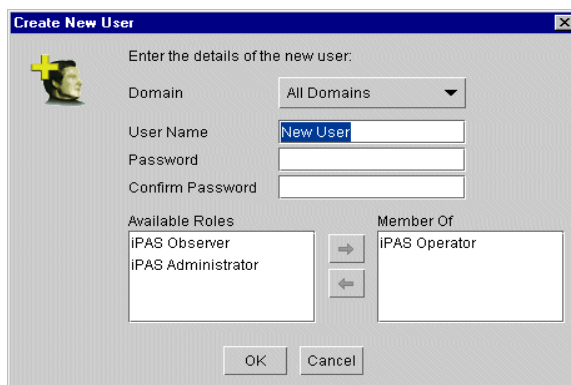


図 32: **Create New User** ダイアログ・ボックス

ユーザ・ロール割当ての変更

概要 このセクションでは、ユーザ・ロールの割当てを変更する方法について説明します。別のユーザのロールの割当てを表示したり変更するには、Administrator の権限でログインする必要があります。

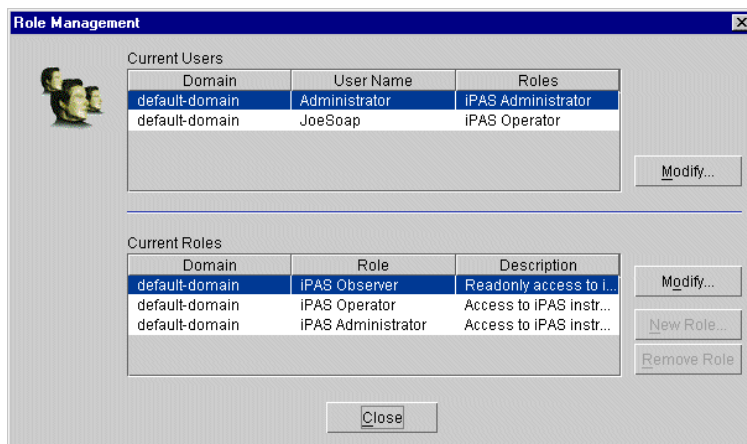


図 33: Role Management ダイアログ・ボックス

ユーザ・ロール割当ての変更

特定ユーザに対するロールの割当てを変更するには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Security** → **User Roles** を選択し、**Role Management** ダイアログ・ボックスを表示する (図 33 を参照)。
2. または **User Information** ダイアログ・ボックスの **User Roles** ボタンをクリックする (図 30 を参照)。
3. **Role Management** ダイアログ・ボックスの **Current Users** リストからユーザを選択する。
4. **Current Users** セクションの **Modify** ボタンをクリックするか、リスト内のユーザをダブルクリックする。
5. **Current User Roles** ダイアログ・ボックスが表示される (図 34 を参照)。

6. **Available Roles** ボックスから、ユーザに割り当てるロールを選択する。
7. 右方向の矢印をクリックして、ユーザ・ロールを割り当てる。ユーザ・ロールが **Member Of** ボックスに表示される。
8. **OK** ボタンをクリックする。

Current User Roles ダイアログ・ボックス

図 34 は **Current User Roles** ダイアログ・ボックスです。

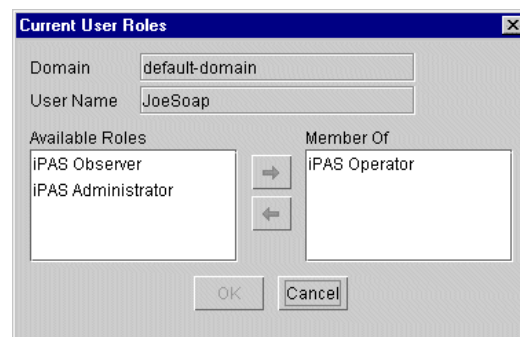


図 34: Current User Roles ダイアログ・ボックス

特定のロールへの ユーザ割当ての変更

特定のロールへのユーザ割当てを変更するには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Security**→**User Roles** を選択し、**Role Management** ダイアログ・ボックスを表示する (図 33 を参照)。
2. または、**User Information** ダイアログ・ボックスの **User Roles** ボタンをクリックする (図 30 を参照)。
3. **Role Management** ダイアログ・ボックスの **Current Roles** リストからロールを選択する。
4. **Role Management** ダイアログ・ボックスの **Current Roles** セクションで **Modify** ボタンをクリックするか、リスト内のロールをダブルクリックする。**Role Properties** ダイアログ・ボックスが表示される (図 35 を参照)。
5. **Non-members** ボックスからロールの新しいユーザを選択する。

6. 右方向の矢印をクリックして、ユーザを割り当てる。ユーザが **Current Members** ボックスに表示される。
7. **OK** ボタンをクリックする。

Role Properties ダイアログ・ボックス

図 35 は **Role Properties** ダイアログ・ボックスです。

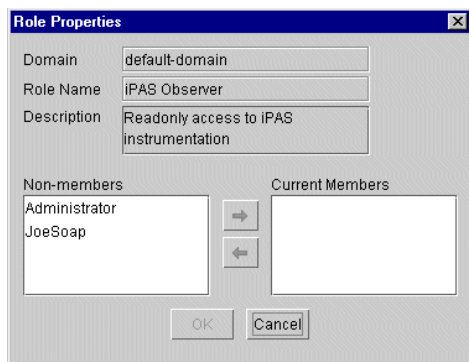


図 35: Role Properties ダイアログ・ボックス

ユーザの削除

概要 このセクションでは、許可された iPortal Administrator ユーザのリストからユーザを削除する方法について説明します。ユーザを削除するには、Administrator の権限でログインする必要があります。

ユーザの削除 ユーザを削除するには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Security**→**Remove User** を選択し、**Remove User** ダイアログ・ボックスを表示する (図 36 を参照)。
2. または、**User Information** ダイアログ・ボックスの **Remove user** ボタンをクリックする (図 30 を参照)。

3. リストから削除するユーザを選択する。
4. **OK** ボタンをクリックする。

Remove User ダイアログ・ボックス

図 36 に **Remove User** ダイアログ・ボックスを示します。

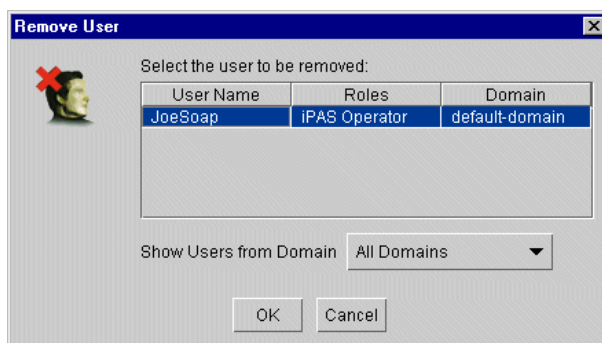


図 36: Remove User ダイアログ・ボックス

忘れたパスワードの管理

概要 このセクションでは、ユーザがパスワードを忘れてしまった場合に対応する管理手順について説明します。ユーザ・パスワードを管理するには、Administrator の権限でログインする必要があります。

ユーザ・パスワードの リセット

パスワードをリセットするには、次の手順を行います。

1. メイン・メニューから **Security** → **Set Password** を選択し、**Set Password** ダイアログ・ボックスを表示する (図 37 を参照)。
2. テキスト・ボックスにユーザ名と新しいパスワードを入力する。
3. **OK** ボタンをクリックする。

Set Password ダイアログ・ボックス

図 37 は Set Password ダイアログ・ボックスです。

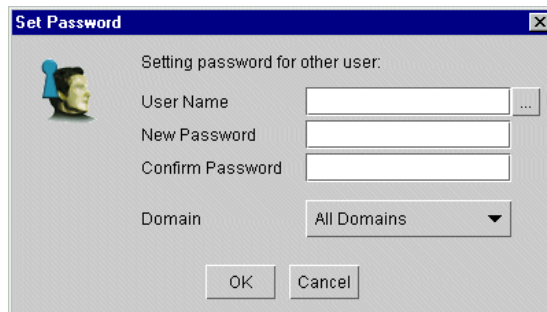


図 37: Set Password ダイアログ・ボックス

Administrator パスワード のリセット

Administrator がパスワードを忘れてしまった場合、別の Administrator のパスワードを使用するか、ファイルを削除して、忘れたパスワードをリセットできます。

別の Administrator パスワードの使用

別の Administrator のパスワードを使用して Administrator パスワードをリセットするには、次の手順を行います。

1. iPortal Administrator の起動時に、Administrator ロールを持つ別のユーザとしてログインする。
2. メイン・メニューから **Security**→**Set Password** を選択し、**Set Password** ダイアログ・ボックスを表示する (図 37 を参照)。
3. テキスト・ボックスにユーザ名と新しいパスワードを入力し、**OK** ボタンをクリックする。

パスワード・ファイルの 削除

別の Administrator パスワードを使用できない場合は、コンフィギュレーション・ファイルを削除して Administrator パスワードをリセットします。

パスワードをリセットするには、次の手順を行います。

1. 次のディレクトリにある iPortal Administrator コンフィギュレーション・ファイルを開く。

```
install-dir\ipas3\etc\domains\ipa.cfg
```

2. `it_management_service` スコープ内の `security:userdb_filename` コンフィギュレーション変数を使用して、`users` ファイルの位置を次のように指定する。

```
security:userdb_filename =  
    "install-dir\ipas3\etc\persistent\users"
```

3. ユーザが存在するディレクトリにある、`users.rt` という名前のファイルを削除する。
4. iPortal Application Server を再起動する。

次に iPortal Administrator Console または iPortal Web Console を起動するとき、ログイン画面で新しい Administrator パスワードを入力するように指示されます。

注： Administrator パスワードは自由にリセットできますが、`users.rt` ファイルはむやみに削除しないでください。

デプロイメントのセキュリティ保全

概要 このセクションでは、デプロイメントのセキュリティ保全に関する次の操作について説明します。

- ユーザ・ログインおよびロール情報の保管
- ユーザ・ログイン情報 およびロール情報の セキュリティ
- 管理アクティビティの検査
- TLS/SSL セキュア・アプリケーションの管理
- iPortal Administrator Web Console の制限
- Web Console の 無効化

注： デプロイメントのセキュリティ保全のため、ログインしたままの iPortal Administrator Console または Web Console 端末を放置しないでください。

ユーザ・ログインおよび
ロール情報の保管

管理サービスは、ユーザ・ログイン およびロール情報を保管します。この情報を含むファイルの場所は、ipa.cfg コンフィギュレーション・ファイルの it_management_service スコープ内の変数で指定します。

security:userdb_filename	ユーザ・ログイン・ファイルの場所の指定。
security:rolesdb_filename	ユーザ・ロール・ファイルの場所の指定。

ユーザ・ログイン情報
およびロール情報の
セキュリティ

コンフィギュレーション・ファイルの情報は暗号化されているので、これらのファイルからパスワードを読み取ることはできません。ただし、次の点に注意してください。

- これらのファイルが不当に削除又は破損されないよう、オペレーティング・システムと同様な保護レベルを設定する。
- 誤ってファイルを破損した場合のために、ファイルを定期的にバックアップする。

これらのファイルは、iPortal Application Server の起動時にユーザによって読み取り／書き込みができる必要がありますが、同時に、不当な削除または変更が行われないように注意してください。

管理アクティビティの検査

管理サービス・ログ・ファイルを閲覧することにより、ユーザ・ログインおよびロールの割当てなどの管理アクティビティの履歴を検査できます。

管理サービス・ログ・ファイルの場所は、it_management_service スコープ内の次の変数で指定されます。

plugins:local_log_stream:filename

TLS/SSL セキュア・
アプリケーションの管理

iPortal Administrator を使用して TLS/SSL セキュア・アプリケーションを管理する場合、コンフィギュレーションを変更する必要があります。

TLS/SSL セキュア・アプリケーション管理を可能にするには、次の手順を行います。

1. デフォルトの iPortal Administrator コンフィギュレーション・ファイル (`install-dir/ipas3/etc/domains/ipa.cfg`) 内に、**IT_MgmtORB** という名前の新しいコンフィギュレーション・スコープを作成する。
2. デフォルトの iPortal Application Server コンフィギュレーション・ファイル (`install-dir/ipas3/etc/domains/ipas-defaults.cfg`) に追加された TLS/SLL セキュリティのコンフィギュレーション設定を追加する。

TLS/SSL セキュリティの iPortal Application Server を設定する方法についての詳細は、『iPortal Application Server 開発者ガイド』を参照してください。

iPortal Administrator Web Console の制限

iPortal Administrator Web Console は、**https** セキュリティ・プロトコルをサポートしません。そのため、他人に情報を盗まれたり、通信を傍受される恐れがある場合は、iPortal Administrator Web Console を使用不可にしてください。

Web Console の 無効化

iPortal Administrator Web Console を使用できなくするためには、**#** 記号を使用して、次のコンフィギュレーション・ファイル内のコンフィギュレーション変数を打ち消します。

```
install-dir/ipas3/etc/domains/ipa.cfg
```

```
it_management_service コンフィギュレーション・スコープ内の  
web_server:port_number 変数をコメント・アウトします。
```


コンフィギュレーション 設定の管理

iPortal Administrator Console の **Configuration View** タブを使用すると、複数のドメイン内でコンフィギュレーション設定の表示および検索ができます。また、コンフィギュレーション・ドメイン、スコープ、ネームスペース、および変数を表示および検索も可能です。

本章では、iPortal Administrator Console を使用してこれらの環境コンフィギュレーション設定を管理する方法について説明します。また、複数のドメイン内でコンフィギュレーション設定を管理する方法についても説明します。iPortal Application Server コンフィギュレーション設定についての詳細は、iPortal Application Server Developer's Guide を参照してください。

本章は、次のセクションで構成されます。

- [Configuration View](#) 86 ページ
- [コンフィギュレーション設定の表示](#) 89 ページ
- [コンフィギュレーション設定の検索](#) 92 ページ

Configuration View

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Console の **Configuration View** (図 38 を参照) について説明します。

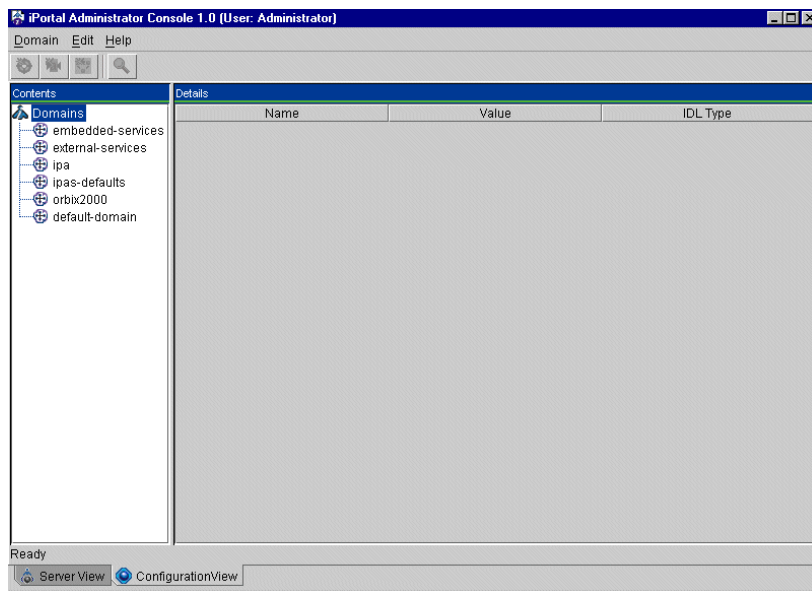


図 38: Configuration View タブ

Configuration View の
コンポーネント

Configuration View には、次の 3 つの主な領域があります。

ナビゲーション・ツリー	Configuration View の左にあるナビゲーション・ツリーを起点にして、コンフィギュレーションを探索する。ナビゲーション・ツリーはドメイン、スコープ、およびネームスペースの階層リストを表示する。
詳細ペイン	Configuration View タブの右にある詳細ペインには、ツリー上で選択したノードに関連するコンフィギュレーション変数が表示される。また、このペインよりこれらの変数を編集することが可能。
メニューおよびツールバー	Configuration View の上部にあるメニューおよびツールバーを使用して、ドメイン内でさまざまな操作（例えば、コンフィギュレーションの検索など）を行うことが可能。

ナビゲーション・ツリーの
アイコン

表 3 は、Configuration View ナビゲーション・ツリーで使用されるアイコンです。





アイコン	説明
	アンロードされたコンフィギュレーション・ドメイン
	ファイル・ベースのドメイン
	コンフィギュレーション・リポジトリ・ベースのドメイン
	コンフィギュレーション・スコープ

表 3: ナビゲーション・ツリーのアイコン


アイコン	説明
	コンフィギュレーション・ネームスペース

表 3: ナビゲーション・ツリーのアイコン

ツールバーのアイコン 表 4 は、**Configuration View** ツールバーで使用されるアイコンです。

アイコン	説明
	コンフィギュレーション・スコープを作成
	コンフィギュレーション・ネームスペースを作成
	コンフィギュレーション変数を作成
	コンフィギュレーション設定を検索
	ヘルプ

表 4: コンフィギュレーション・ツールバーのアイコン

注： ファイル・ベースのドメイン（ファイルはローカル）では、コンフィギュレーション設定を表示および検索できます。コンフィギュレーション・リポジトリ・ベースのドメイン（中央集中型）では、iPortal Administrator Console を使用してコンフィギュレーション設定の作成、変更、および削除を行うこともできます。

コンフィギュレーション設定の表示

概要 ナビゲーション・ツリーおよび詳細ペインでは、ドメインの内容が表示されます。このセクションでは、コンフィギュレーション・スコープ、ネームスペース、および変数を表示する方法について説明します。

ドメインのロード・アップ コンフィギュレーション設定を表示するには、まず、ナビゲーション・ツリーに選択したドメインをロード・アップする必要があります

ドメインをロード・アップするには、ナビゲーション・ツリー内のドメインをクリックします。ナビゲーション・ツリー内のドメインのアイコンがロード・アップ済みドメインのアイコンに変わり、ルート・コンフィギュレーション・スコープの変数が詳細ペインに表示されます。

図 39 では、ナビゲーション・ツリー内のロード・アップ済みドメインおよび 詳細ペイン内のドメイン（この場合、ファイル・ベースのドメインである **default-domain**）のルート・レベル設定を示します。

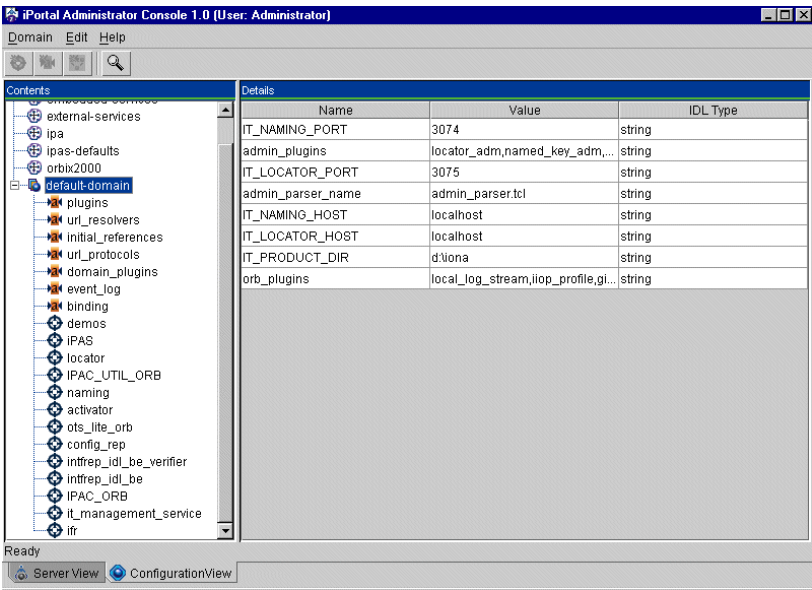


図 39: コンフィギュレーション設定の表示

コンフィギュレーション・スコープおよびネームスペースの表示

概要 ナビゲーション・ツリー内のロード・アップ済みドメインは展開表示をすることができ、ドメイン内のコンフィギュレーション・スコープおよびネームスペースを表示することができます。

ナビゲーション・ツリーの展開表示 ナビゲーション・ツリー上のドメインを展開表示するには、アイコン左側にある **+** 記号をクリックするか、ドメイン・アイコンをダブルクリックします。例えば、**default-domain** アイコンをクリックすると、[図 39](#) のようになります。

ナビゲーション・ツリーへのドリリング サブスコープおよびサブネームスペースを表示するには、ナビゲーション・ツリーへのドリリングを行います。[図 40](#) のナビゲーション・ツリーは、**iPAS** スコープの内容（例えば、**iPAS.Server.Default** サブスコープ）を表示しています。

ナビゲーション・ツリーの縮小表示 ツリー・ノードを閉じるには、左側にある **-** 記号をクリックするか、展開したフォルダをダブルクリックします。例えば、**default-domain** アイコンをダブルクリックすると、[図 40](#) のようになります。

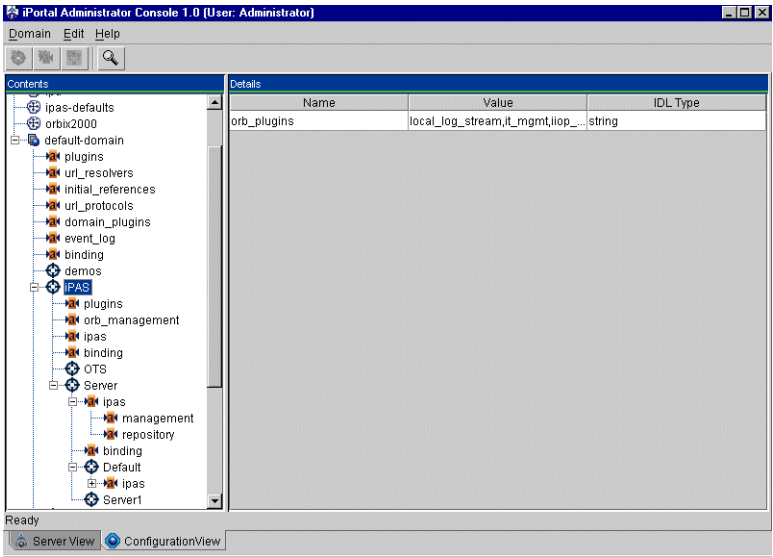


図 40: コンフィギュレーション・スコープおよびネームスペースの表示

コンフィギュレーション変数の表示

概要 **Configuration View** の右側にある詳細ペインには、現在選択されているスコープまたはネームスペース内に直接含まれるコンフィギュレーション変数が表示されます。

ナビゲーション・ツリーの使用 ドメイン内のコンフィギュレーション変数を表示するには、ナビゲーション・ツリー上のスコープまたはネームスペースを選択します。詳細ペインに、変数の詳細が表示されます。

例えば、[図 41](#) は **it_management_service** スコープ内の **event_history** ネームスペースに含まれる変数を示します。詳細ペインには、変数の名前、値、およびタイプが表示されます。

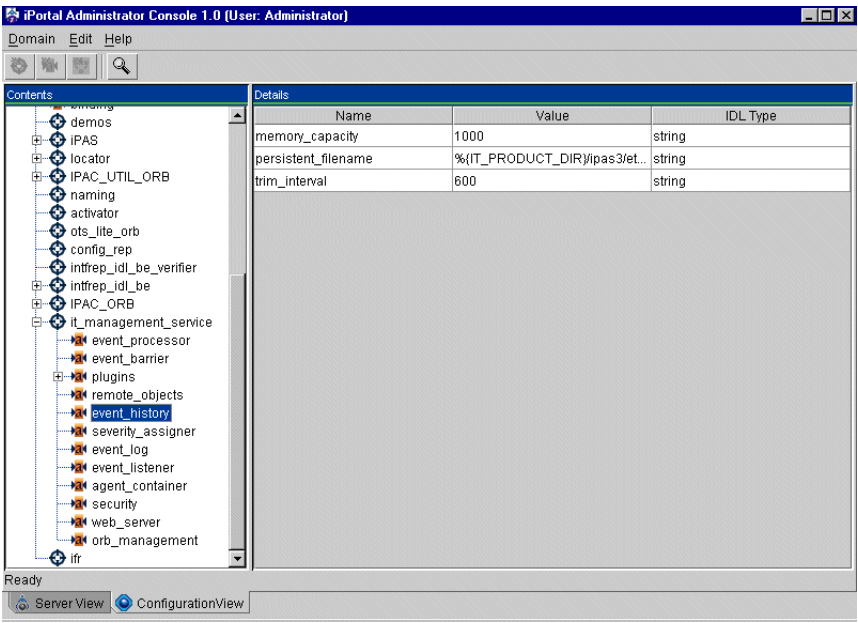


図 41: コンフィギュレーション変数の表示

コンフィギュレーション設定の検索

概要 このセクションでは、ロードされたドメイン内でコンフィギュレーション設定を検索する方法について説明します。[図 42](#) は、iPortal Administrator の **Find** ダイアログ・ボックスです。

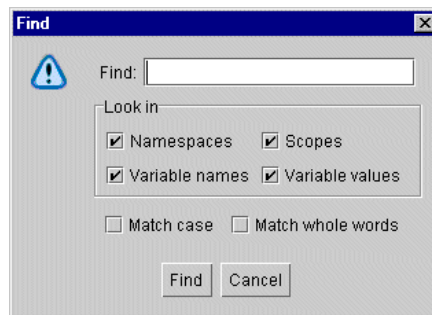



図 42: Find ダイアログ・ボックス

ドメインをロードする方法についての詳細は、[89 ページ](#)の「[ドメインのロード・アップ](#)」を参照してください。

コンフィギュレーション・ドメイン内の文字列検索

ドメイン内の特定の文字列を検索するには、次の手順を行います。

1. ナビゲーション・ツリー内のドメインを選択する。
2. メイン・メニューから **Edit**→**Find** を選択するか、ツールバーの **Find** ボタン（次の図を参照）をクリックし、**Find** ダイアログ・ボックス（[図 42](#)）を表示する。


3. **Find** テキスト・ボックスに検索する文字列を入力する。例えば、文字列 **web_server** を検索（[図 43](#) を参照）。
4. **Find** ボタンをクリックすると、結果が表示される。例えば、**web_server** コンフィギュレーション・ネームスペースおよびコンフィギュレーション変数が表示される（[図 44](#) を参照）。

検索の例 図 43 は、Find ダイアログ・ボックスを使用した検索の例です。

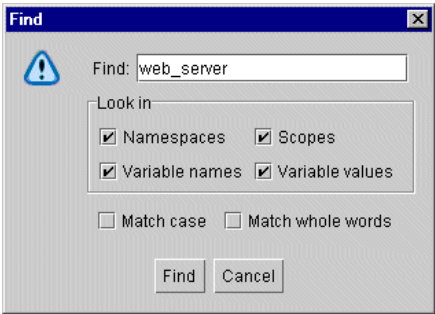


図 43: 検索の例

検索の再実行 最後にを行った検索をもう一度実行するには、メイン・メニューから Edit → Find Again を選択するか、F3 ボタンを押します。

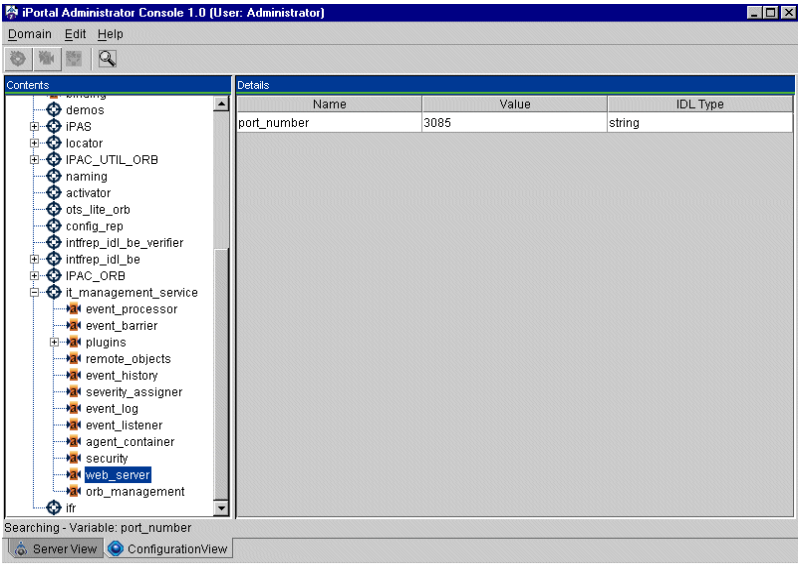


図 44: 検索結果の例

パート 3

iPortal Administrator Web Console

パート 3 は次の章で構成されます。

- ・ iPortal Administrator Web Console の操作..... 97 ページ
- ・ アプリケーション管理..... 109 ページ
- ・ イベントの監視..... 117 ページ

iPortal Administrator Web Console の操作

本章では、iPortal Administrator Web Console の起動、終了、ならびにナビゲーションの方法や、ヘルプの表示方法などの操作について説明します。

iPortal Administrator Web Console は分散アプリケーションの操作および管理に使用できる標準 Web ブラウザ・インターフェイスです。

iPortal Administrator Web Console は、HTML および JavaScript を使用し、標準の Explorer ビューを作成してデータを表すので、初心者ユーザでも経験豊富なユーザ同様簡単に操作できます。iPortal Administrator Web Console についての概要は、[13 ページの「iPortal Administrator 製品の概要」](#)を参照してください。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ [iPortal Administrator Web Console の準備](#) 98 ページ
- ・ [iPortal Administrator Web Console の起動](#) 100 ページ
- ・ [iPortal Administrator Web Console の操作](#) 103 ページ
- ・ [iPortal Administrator Web Console アイコン](#) 107 ページ

iPortal Administrator Web Console の準備

概要 iPortal Administrator Web Console を起動する前に、環境が正しく設定されていて、iPortal Application Server が動作していることを確認してください。

Web ブラウザのバージョン確認 iPortal Administrator Web Console の使用に推奨されているブラウザは次のとおりです。

- Microsoft Internet Explorer 5.0 以降
- Netscape Navigator 6.0 以降

注： これらのブラウザのバージョン 4.0 以降、または JavaScript をサポートする他のブラウザも使用できますが、一部の表示機能を使用できない場合があります。

コンフィギュレーションの確認 iPortal Application Server を正しくインストールすると、iPortal Administrator Web Console のコンフィギュレーションが正しく設定されます。

システムのコンフィギュレーションを確認するには、次のコマンドを入力します。

UNIX	<code>install-dir/setenvs.sh</code>
Windows	<code>install-dir\setenvs.bat</code>

iPortal Application Server の動作の確認 iPortal Administrator Console を起動する前に、iPortal Application Server が正しく動作していることを確認します。

iPortal Application Server を稼動するには、次の操作を行います。

全てのプラットフォーム	次のコマンドを入力します。 <code>java iportal.server</code>
Windows	次の手順を行います。 1. スタートボタンをクリックし、プログラム → IONA iPortal Application Server → iPortal Application Server Tools の順に選択する。ショートカット・ツールバーが表示される (図 45 を参照)。 2. Start Server ボタンをクリックする (図 45 を参照)。

iPortal Administrator 管理サービスを含む iPortal Application Server およびそのサービスが起動します。



図 45: iPortal Tools ショートカット・ツールバー

管理対象サーバの動作の確認

iPortal Administrator はランタイムにおける管理を行います。実装されたサーバのうち、管理対象サーバは iPortal Application Server を除いて全て動作している必要があります。

iPortal Administrator Web Console の起動

概要 コンフィギュレーションの確認ならびに、iPortal Application Server の動作の確認が完了すると、iPortal Administrator Web Console を起動することができます。

このセクションでは、コマンド・ラインおよび Windows **スタート**メニューからの起動方法、および管理者としてのログイン方法について説明します。

ブラウザからの起動 iPortal Administrator Web Console を起動するには、Web ブラウザに次のファイルをロードします。

```
instal-dir\ipas3\etc\domains\resources\ipa_webconsole.html
```

または、Web ブラウザの **Address** フィールドに次の URL を入力します。

http://localhost:3085/

注： **Administration Console** リンクをクリックし、**Welcome Application** から iPortal Administrator Web Console を起動することもできます。この場合、Web ブラウザ内でコンソールが起動します。

**ログイン・
ダイアログ・ボックス**

iPortal Administrator Web Console を起動すると、**Enter Network Password** ダイアログ・ボックスが表示されます (図 46 参照)。

管理者としてのログイン 管理者としてログインするには、次の手順を行います。

1. **User Name** フィールドに **Administrator** と入力する。
2. **Password** フィールドに **IONA** と入力する。
3. **OK** ボタンをクリックする。



図 46: ログイン・ダイアログ・ボックス

注: **User Name** および **Password** フィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

iPortal Administrator Web Console

ログインに成功すると、ブラウザ・ウィンドウに iPortal Administrator Web Console が表示されます (図 47 を参照)。



図 47: iPortal Administrator Web Console

アドレスの指定 Web ブラウザで管理サービス・ホストのアドレスを指定することにより、iPortal Administrator Web Console を起動することができます。

iPortal Administrator Web Console を起動するには、Web ブラウザの **Address** フィールドに次の URL を入力します。

http://host:port_number

変数 **host** は、ドメインの管理サービスが稼動しているホストの名前または IP アドレスです。変数 **port_number** は、このドメインに設定された Web サーバのポート番号です。デフォルトのポート番号は **3085** です。

アドレスの例は、次のとおりです。

http://localhost:3085/
http://hamlet.myco.com:3085/
http://192.165.146.12:3085/

Web Console の トラブルシューティング

管理サービスには、iPortal Administrator Web Console のための次のコンフィギュレーション設定が必要です。

```
it_management_service
{
    ...
    web_server:port_number = "port_number";
    web_server:http_dir = "installation_dir/orbix_art/1.1/http";
    ...
};
```

変数 **port_number** は、ドメイン用に設定した Web サーバのポート番号を参照します。これらのコンフィギュレーション設定は、インストール時に設定されます。

iPortal Administrator Web Console の操作

概要 iPortal Administrator Web Console は簡単に操作できるようにデザインされています。

このセクションでは、iPortal Administrator Web Console のコンポーネントについて、またこれらのコンポーネントを使用して iPortal Administrator Web Console の操作を行う方法について説明します。

コンポーネント iPortal Administrator Web Console の主要コンポーネントは、次のとおりです。

- ナビゲーション・ツリー
- 詳細ペイン
- 履歴表示
- ツールバー・アイコン

ナビゲーション・ツリー 分散アプリケーションの探索は、iPortal Administrator Console の左側にあるナビゲーション・ツリーから始めます。ナビゲーション・ツリーを使用して、目的の管理対象サーバを検索することができます。

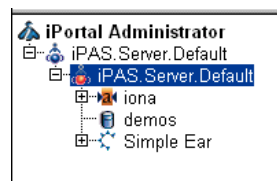


図 48: ナビゲーション・ツリー

ツリー上の端末ノードをクリックして、コンソールの右側にある詳細ペインにノードの内容を表示します。

ツリー・ノードの
詳細の表示

コンソール・ウィンドウの右側にある詳細ペイン（第 7 章参照）には、選択したノードの詳細が表示されます。

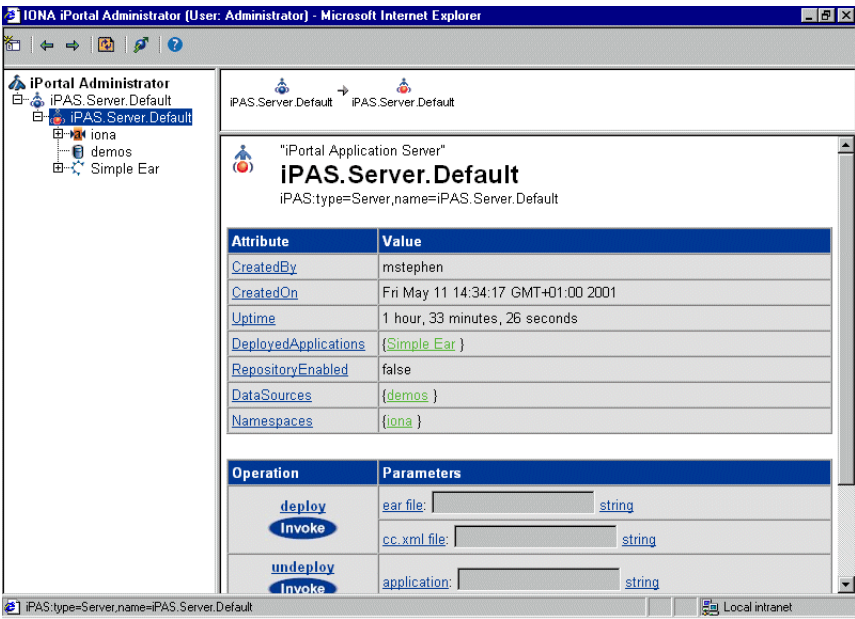


図 49: 詳細ペイン

選択したノードの
内容の表示

選択したノードの内容を表示するには、ナビゲーション・ツリー上のノードをクリックします。これにより、右側の詳細ペインに選択したノードの内容が表示されます。ツリーに子ノードがある場合、含まれている子ノードのリストが表示されます。

管理対象サーバの 属性の表示

管理対象サーバをさらにドリリングするには、詳細ペイン内の **Value** カラムのハイパーリンクをクリックします。**Attribute** カラム内のハイパーリンクには、属性の詳細情報が表示されます。図 50 に **CreatedBy** 属性の情報を示します。

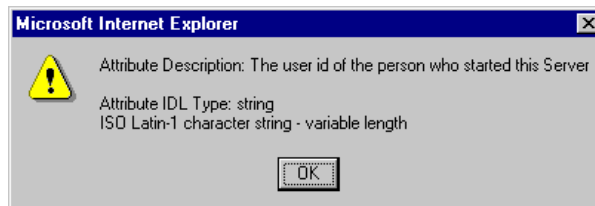


図 50: 管理対象サーバの属性の表示

詳細ペインの更新

詳細ペインを強制的に更新するには、ツールバー上の **Refresh** ボタン（図 51 を参照）をクリックします。



図 51: Refresh ボタン

注： Refresh ボタンを押すことにより詳細ペイン表示を強制的に更新すると、Web ブラウザのキャッシュが上書きされます。iPortal Administrator Web Console を使用するときは、ブラウザのキャッシング機能を使用不可にしてください。

ナビゲーション履歴の表示

ナビゲーション・ツリーでドリリングを行うと、詳細ペインの上部にその履歴（図 52 を参照）が表示され、現在表示されているサーバへのパスを示します。ナビゲーションの履歴はナビゲーション・ツリーで選択した管理対象サーバを基点として表示されます。



図 52: ナビゲーション履歴の表示

ナビゲーションの方向

ナビゲーション履歴に表示されたアイコンをクリックして、ナビゲーション履歴上の任意の位置に戻ることができます。

また、Web ブラウザのように、ツールバー上の **Backward** および **Forward** 矢印を使用して以前表示した位置のビューに復帰することができます。

新規ウィンドウでの起動

iPortal Administrator Web Console のもう一つのインスタンスを起動するには、**New Window** ボタン（図 53 を参照）をクリックします。



図 53: New Window ボタン



複数の管理対象サーバを同時に表示するときに、iPortal Administrator Web Console のもう一つのインスタンスを起動すると大変便利です。

iPortal Administrator Web Console アイコン

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Web Console で使用されるアイコンについての詳細を説明します。

- ツールバー・アイコン
- 管理サーバ・アイコン

ツールバー・アイコン iPortal Administrator Web Console ツールバー内で使用されるアイコンは、次のとおりです。

アイコン	説明
	New Window 現在のウィンドウから、iPortal Administrator Web Console を独立して稼動する新規ブラウザ・ウィンドウを開く。
	Refresh 詳細ペイン でリフレッシュを行う。リフレッシュによってキャッシングが上書きされる。
	Backward 前に表示したページに戻る。
	Forward 戻ったページから次に進む。

アイコン	説明
	Events Console 別のウィンドウに Events Console を表示する。
	Options Dialog Options ダイアログ・ボックスを表示する
	Quick Overview Help 別のウィンドウにクイック・ヘルプを表示する。

管理対象サーバ・アイコン iPortal Administrator Web Console で使用される管理対象サーバ・アイコンは、iPortal Administrator Console で使用されるアイコンと同じです。アイコンについての詳細は、[36 ページの「iPortal Administrator Console アイコン」](#)を参照してください。

アプリケーション管理

本章では、iPortal Administrator Web Console を利用してサーバ・アプリケーションを管理する方法について説明します。また、iPortal Administrator Console の Server View を使用してサーバを監視ならびに制御する方法について、例を挙げて説明します。

iPortal Administrator Web Console には、ドメイン内の分散アプリケーションの管理可能なコンポーネントが全て表示されます。iPortal Administrator Web Console を使用して、ドメイン内のサーバを管理できます。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ 管理対象サーバの監視 110 ページ
- ・ 管理対象サーバの制御 112 ページ

管理対象サーバの監視

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Web Console を利用して管理対象サーバを監視する方法について説明します。ドメイン内の管理対象サーバの概念、およびその監視方法について説明します。

ドメイン ドメインとは、分散アプリケーションのコンポーネントの抽象的な集まりです。通常ドメインは、物理的に同じ場所（同じ LAN 内、同じ建物内、同じ地区内、または同じ国内など）においてホスト上で稼動する、全てのコンポーネントを指します。

ドメインは、管理対象サーバを任意の数だけ含むことができます。管理対象サーバは、EJB アプリケーション・サーバまたはその他の登録されたプロセスのインスタンスです。iPortal Administrator Console を使用してドメインを管理する方法についての詳細は、[44 ページの「ドメインの管理」](#)を参照してください。

注： iPortal Administrator ドメインは、iPortal Application Server または Orbix 2000 のコンフィギュレーション・ドメインにあたります。

管理対象サーバ 管理対象サーバは、ホスト上で稼動中の、またはホスト上で実行する準備のできた物理的なプロセスです。管理対象サーバは、EJB アプリケーション・サーバまたはその他の登録されたプロセスのインスタンスです。ドメインには、任意のタイプの管理対象サーバをいくつでも含めることができます。

**管理機能の
インストルメンテーション** サーバ・プロセスにコアとなる管理機能のインストルメンテーションが施されている場合、これは管理対象サーバになります。インストルメンテーションとは、JMX（Java Management Extensions）で使用される用語で、特定のサーバ・コンポーネントの管理を可能にするためのコードをサーバ・コードに追加する操作を指します。

IONA 製品には既にインストルメンテーションが施されているため、管理者はインストルメンテーションを行う必要はありません。『iPortal Application Server 開発者ガイド』には、プログラマの方々を対象とした、インストルメンテーションによるサーバ・アプリケーションのカスタマイズに関する説明が記載されています。

MBean MBean は JMX で使用される用語で、一般の管理可能なオブジェクト、管理対象ビーン (Managed Bean) を表します。MBean は一意の名前で識別され、多数の管理可能な属性とオペレーションを持つことができます。iPortal Administrator は、全ての管理対象サーバに対して MBean という用語を使用します。

管理対象サーバの表示 管理対象サーバを監視するには、まずナビゲーション・ツリーで管理の対象となるサーバを選択します。図 54 は、選択した管理対象サーバの初期表示の例です。

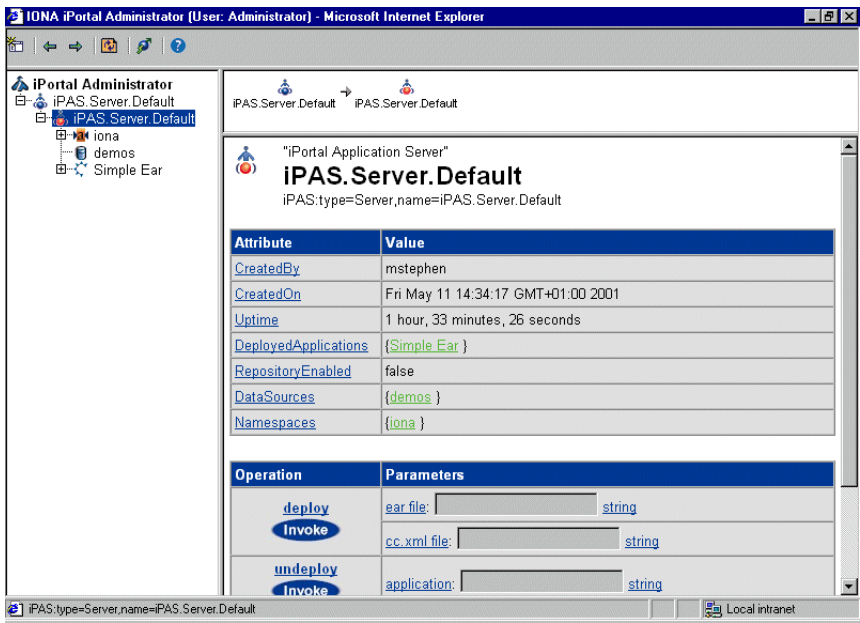


図 54: Web Console での管理対象サーバの表示

root MBean 最初は、詳細ペインの上部に表示されている履歴には、管理対象サーバの root MBean を表すアイコンが 1 つ表示されています。

root MBean は通常、管理対象サーバと同じ名前を持ち、サーバへのドリリングを行うための開始点となります (図 54 では **iPAS. Server.Default**)。

管理対象サーバの属性

画面の右側にある詳細ペインには、**root MBean**によって表される管理対象サーバの属性が表示されます。セルの背景がグレーの属性値は読取り専用です。

背景が白い属性値、またはドロップダウン・リストによる値の選択が可能な属性値は変更できます。詳細は、[113 ページの「属性の設定」](#)を参照してください。

管理対象サーバへのドリリング

ハイパーリンクで表される属性は、別の管理対象エンティティへの参照です（例えば [図 54](#) では **Simple Ear** アプリケーション）。参照する管理対象エンティティを開くには、ハイパーリンクをクリックします。このことを、**管理対象サーバへのドリリング**といいます。

管理対象サーバにドリリングを行うと、詳細ペインに管理対象となる各エンティティの属性と履歴表示が表示されます。

ステータスの監視

MBeansによって公開されたもの以外のステータスの監視は、iPortal Administrator Web Console では現在サポートされていません。管理対象サーバおよびドメインのステータスの監視（例えば、サーバがアクティブか非アクティブかを監視する）および制御には iPortal Administrator Console を使用します。詳細は、[50 ページの「ステータスの監視」](#)を参照してください。

管理対象サーバの制御

概要

管理対象サーバの制御には、管理対象サーバの起動、停止、属性の変更、ならびに管理対象サーバ上でのオペレーションの呼び出しなどが含まれます。管理対象サーバの起動と停止は、管理対象サーバ全体にしか適用できませんが、属性の変更やオペレーションの実行は、個別に適用できます。

管理対象サーバの起動と停止

Web コンソールからの管理対象サーバの起動および停止は、現在サポートされていません。管理対象サーバを制御するには、iPortal Administrator Console を使用します。詳細は、[52 ページの「管理対象サーバの制御」](#)を参照してください。

管理対象サーバの属性

管理対象サーバの属性は、その属性が表示されている詳細ペインから設定することができます（114 ページの図 55 を参照）。テキスト・ボックスによって表示されている属性値、あるいはドロップダウン・リストによる設定が可能になっている属性値は変更が可能です。また、**Attribute** カラムの属性名をクリックすると、属性についての詳しい情報が表示されます。

属性の設定

属性を設定するには、次の手順を行います。

1. 詳細ペインの右側にある値フィールドを選択する。
2. テキスト・フィールドに新しい値を入力するか、矢印をクリックしてドロップダウン・リストから値を選択する。
3. **Set** ボタンをクリックして変更を適用する。複数の属性値を変更して一度に適用できる。

変更した値を元の状態に復帰するには、**Reset** ボタンをクリックします。

サーバ属性の設定例 図 55 は、Web コンソールからのサーバ属性の設定の例です。

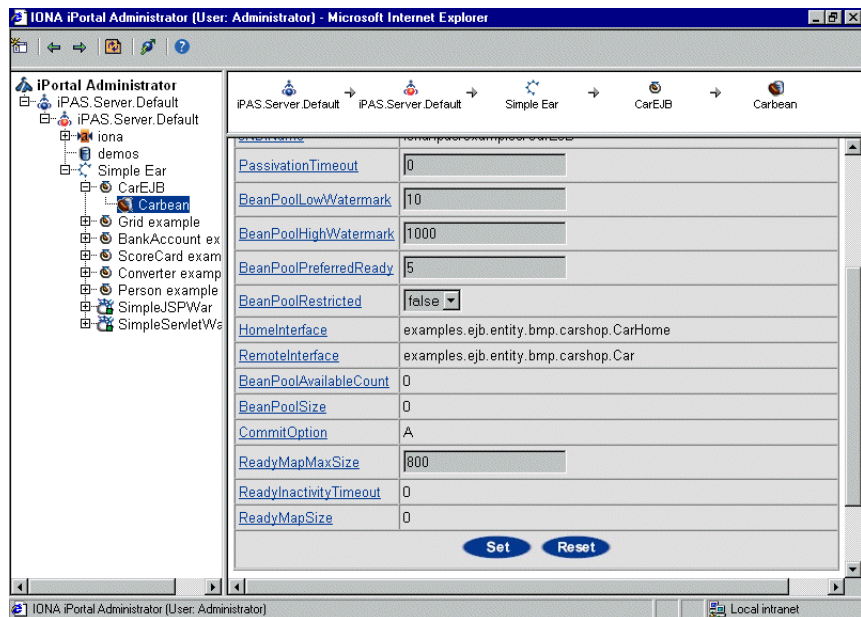


図 55: Web Console での属性の設定

管理対象サーバの オペレーション

管理対象サーバは、管理システムに 1 つ以上のオペレーションを公開することができます。これらのオペレーションはコンソールから起動できます。オペレーションについての次の情報は、詳細ペインに表示されます。

- オペレーション名
- **Invoke** ボタン
- 入力パラメータ・タイプ
- リターン・パラメータ・タイプ

オペレーションの例 図 56 に、デフォルトの iPortal Application Server (`iPAS.Server.Default`) のオペレーションの例を示します。例えば、`lookupJNDIoperation()` オペレーションは JNDI 名を取り、対応するオブジェクト・クラス名を返します。

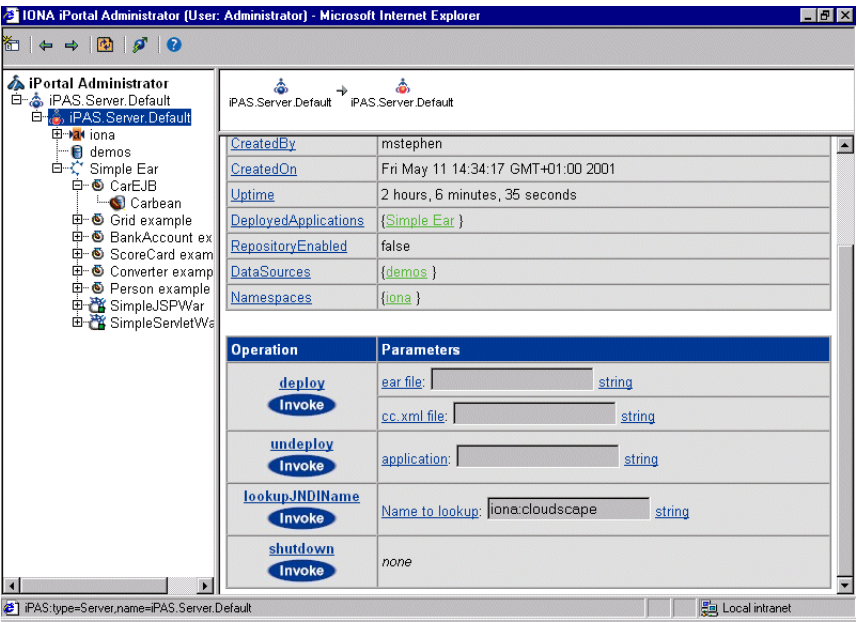


図 56: Web Console 内のオペレーションの例

オペレーションの呼び出し オペレーションを呼び出すには、次の手順を行います。

1. Web コンソールの詳細ペイン内で、Parameters テキスト・ボックスに選択したパラメータを入力する。図 56 は `iona:cloudscape` JNDI 名の単一パラメータを示す。

オペレーションには複数のパラメータを選択できます。また、パラメータを選択しなくても構いません。
2. 詳細ペイン内の Invoke ボタンをクリックする。図 57 は `lookupJNDIoperation()` オペレーションに対して表示されたダイアログ・ボックスを示す。このダイアログ・ボックスには、`iona:cloudscape` JNDI 名に対応するオブジェクト・クラス名が表示される。



図 57: オペレーションの呼び出し

書込みオペレーション

図 57 に示すオペレーションの例は、読取り専用オペレーションです。オペレーションがサーバの属性値を変更する場合、詳細ペインが自動的に更新され、新しい属性値が表示されます。

イベントの監視

本章では、iPortal Administrator Web Console の Events Console を使用してイベントを監視する方法について説明します。Events Console の起動方法ならびに操作方法について解説します。

iPortal Administrator Web Console の **Events Console** を使用して、管理サーバによって生成されたイベントを表示できます。Event Console には、更新されたイベント情報が履歴順に表示されます。また、イベントの重要度をカスタマイズし、フィルタを適用することにより一定の重要度以上のイベントのみを表示することもできます。

本章は、次のセクションで構成されます。

- ・ Events Console の起動..... 118 ページ
- ・ イベントの表示..... 119 ページ

Events Console の起動

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Web Console の **Events Console** を起動する方法について説明します。

Events ボタンの使用 **Events Console** を起動するには、iPortal Administrator Web Console ツールバーの **Events** ボタンをクリックします (図 58 を参照)。



図 58: イベント・ボタン

Event Console が既にある場合、このボタンをもう一度クリックすると、Web Console が前面に移動します。

Events Console の例 図 59 は、Web Console から起動した **Events Console** の例です。上から下に新しいイベントから順に、一覧表示されています。

Date	Time	Severity	Event Source	Event Name
16May	18:20:23	Info	iPAS. Server.Default	ManagediBank.Authorization.loginFailed
16May	18:19:52	Info	iPAS	JMX.mbean.registered
16May	18:19:51	Info	iPAS	JMX.mbean.registered
16May	18:19:51	Info	iPAS	JMX.mbean.registered
16May	18:19:51	Info	iPAS	JMX.mbean.registered
16May	16:39:40	Info	iPAS	JMX.mbean.unregistered
16May	16:39:40	Info	iPAS	JMX.mbean.unregistered
16May	16:39:40	Info	iPAS	JMX.mbean.unregistered
16May	16:15:12	Info	iPAS. Server.Default	JMX.mbean.registered
16May	16:15:12	Info	iPAS. Server.Default	JMX.mbean.registered
16May	16:15:04	Info	iPAS. Server.Default	JMX.mbean.registered
16May	16:15:04	Info	iPAS. Server.Default	JMX.mbean.registered

図 59: Events Console

イベントの表示

概要 このセクションでは、iPortal Administrator Web Console を使用してドメイン内のイベントを表示する方法、および表示オプションを設定する方法について説明します。

ドメイン内のイベントの表示 イベントは常に、ドメインごとに表示されます。異なるドメインからイベントを表示するには、ドメインの管理サービスに接続する Web Console を起動し、そこから Event Console を起動します。詳細は、98 ページの「[iPortal Administrator Web Console の準備](#)」を参照してください。

イベント表示の更新 Event Console を起動すると、その時点でのイベントの最新情報が Event Console に表示されます。表示される情報は自動的に更新されないため、ツールバーの **Refresh** ボタン (図 60 を参照) をクリックして表示を更新する必要があります。



図 60: Refresh ボタン

表示するイベント数の設定 管理サーバから取得するイベントの最大数を設定するには、コンソールの上部にある **Display Events** フィールドのドロップダウン・リストを使用します。

表示するイベントの重要度の設定 **Event Threshold** 値を設定することにより、リストに表示するイベントの重要度の最低レベルを指定することができます。イベントの重要度には、次の 4 つのレベルがあります。

- **Critical**
- **Error**
- **Warning**
- **Info**

Critical は最高レベルで、**Info** は最低レベルです。

イベントの重要度の設定

表示されるイベントの最低レベルの重要度を設定するには、画面の右上にある **Event Threshold** ドロップダウン・リストを使用します。デフォルトでは **Info** に設定されており、全ての重要度レベルのイベントが表示されます。

イベント・リストに表示される情報

イベント・リストには、各イベントに対して次の情報が表示されます。

- イベントが発生した日付と時刻
- イベントの重要度
- イベントを作成したエージェント
- イベント名

イベント詳細の完全表示

特定のイベントの包括的な詳細を表示するには、表示されている任意のイベントをクリックします。図 61 には、iBank サンプル・アプリケーションからのイベントの完全な詳細が表示されています。このアプリケーションは、ユーザ・ログインに失敗すると、**ManagediBankAuthorisation.loginFailed** イベントを送信します。

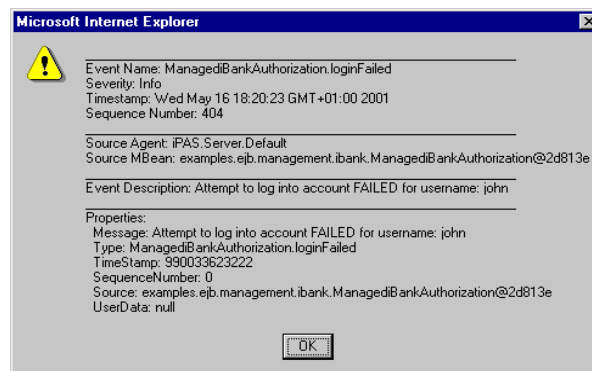


図 61: イベントの完全な詳細

イベント・フィルタ

各イベントの重要度設定と、iPortal Administrator Console ドメインの **Shared** フィルタ設定の組み合わせによって特定のイベントのみを表示することができます。詳細は、63 ページの「**Events Console のカスタマイズ**」を参照してください。

パート 4

iPortal Administrator 管理サービス

パート 4 は次の章で構成されます。

・ 管理サービスの設定 123 ページ

管理サービスの設定

本章では、iPortal Administrator 管理サービスを設定する方法について説明します。管理サービスは、管理ツールが管理対象アプリケーション（例えば、iPortal Administrator Console）にアクセスするための拠点となります。

本章は、次のセクションで構成されます。

・管理サービス・コンフィギュレーション	124 ページ
・イベント・ログの設定	126 ページ
・リソース・エージェントの設定	127 ページ
・イベント・リスナーの設定	128 ページ
・イベント履歴処理の設定	130 ページ
・イベント処理の設定	132 ページ
・管理サービス Web サーバの設定	133 ページ

管理サービス・コンフィギュレーション

概要 このセクションでは、iPortal Administrator 管理サービスがコンフィギュレーションを取得する仕組みについて説明します。また、iPortal Administrator **Configuration View** の例を説明します。

iPortal Administrator 管理サービスを設定するには、コンフィギュレーション・ファイルを直接編集します。コンフィギュレーション・ファイルは **install-dir\ipas3\etc\domains** ディレクトリに保存されています。

管理サービス・ コンフィギュレーション・ スコープ

管理サービスは、コンフィギュレーション・ファイルの **it_management_service** コンフィギュレーション・スコープからコンフィギュレーションを取得します。

it_management_service 内のコンフィギュレーション変数が正しく設定されないまま管理サービスを起動すると、イベント・ログと標準エラーに警告が送信されます。変数によっては、デフォルト値が適用できるものもありますが、その機能が使用不可となるものもあります。（例えば、永続ファイル名が設定されていない場合、永続ストレージは使用できません）。

コンフィギュレーション・ ファイルの例

次は、**default-domain.cfg** ファイルの **it_management_service** スコープ内のコンフィギュレーション変数の例です。

```
it_management_service
{
    event_log:filters = "{IT_MGMT_SVC=*}";

    plugins:local_log_stream:filename =
        "%{IT_PRODUCT_DIR}/etc/logs/mgmt_service.log";

    plugins:local_log_stream:rolling_file = "true";
    .
    .
    .
};
```

本章では、**it_management_service** 変数を使用して管理サービス機能を設定する方法について説明します。

Configuration View の例 図 62 は、iPortal Administrator の Configuration View 内の `it_management_service` コンフィギュレーション変数の例です。

iPortal Administrator の Configuration View を使用してコンフィギュレーション変数を管理する方法についての詳細は、第 6 章を参照してください。

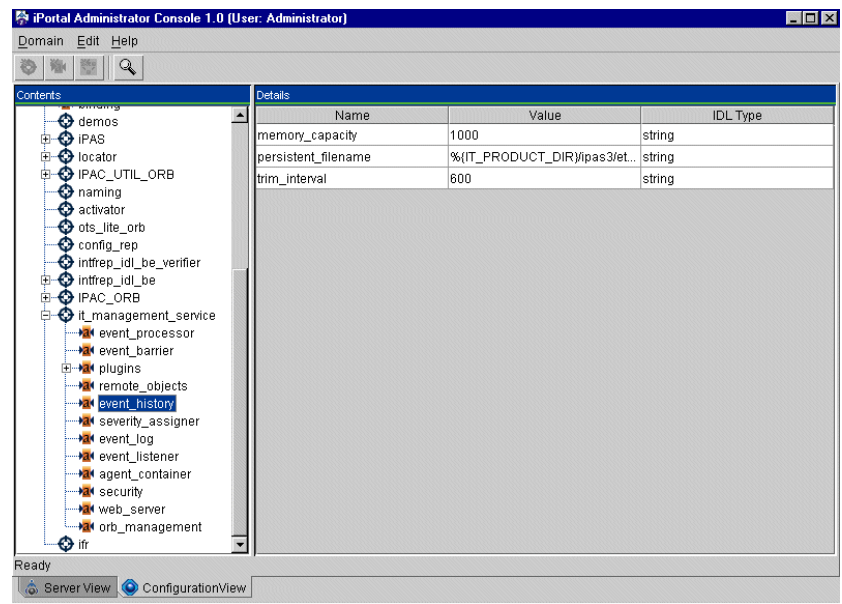


図 62: iPortal Administrator の Configuration View

イベント・ログの設定

概要 このセクションでは、管理サービス・イベント用の iPortal Application Server イベント・ログを使用可能にする方法、およびイベント・ログをファイルに出力する方法について説明します。

イベント・ログ・フィルタの設定

管理サービス用のイベント・ロギング機能を使用可能にするには、**IT_MGMT_SVC** サブシステムの必須イベントの重要度を設定する必要があります。これらのイベントの重要度を設定するには、**it_management_service** コンフィギュレーション・スコープ内の **event_log_filters** コンフィギュレーション変数を使用します。

次は、コンフィギュレーション・ファイルの例です。
(推奨のデフォルト設定)

```
event_log:filters = "{IT_MGMT_SVC=INFO_HI,WARN,ERR,FATAL}";
```

全ての管理サービス・イベントのロギングを使用可能にするには、次のように設定します。

```
event_log:filters = "{IT_MGMT_SVC=*}";
```

ログのファイルへの出力

デフォルトでは、iPortal Application Server はイベント・メッセージを標準エラー・ストリームに記録します。ログをファイルに出力するには、**it_management_service** コンフィギュレーション・スコープ内に次の変数を設定します。

```
plugins:local_log_stream:filename =  
    "<log-dir>/mgmt_service.log";  
plugins:local_log_stream:rolling_file = "true";
```


ローカル・ログ・ストリームの設定

管理サービスの移動中に、設定したログ・ファイルが表示されない場合、例えば次に示すように、`orb_plugins` 変数に `local_log_stream` プラグインを追加する必要があります。

```
orb_plugins = ["local_log_stream", "iiop_profile", "giop",  
              "iiop", "ots"];
```

管理サービスがイベント・ログ・ファイルを記録するためには、これらのコンフィギュレーション変数が正しく設定されている必要があります。

リソース・エージェントの設定

概要

このセクションでは、管理サービスのリソース・エージェント・ファイルおよびリソース・エージェント・タイムアウトを設定する方法について説明します。

管理サービスの `it_management_service` コンフィギュレーション・スコープ内のコンフィギュレーション変数を全て設定する必要があります。

リソース・エージェント

管理対象サーバは、管理サービスにリソース・エージェント・リファレンスを登録します。これにより、管理対象サーバの管理が可能となります。リソース・エージェント・リファレンスはファイル・システム内に保存されます。

リソース・エージェントは、管理対象サーバ内の JMX 実装プラグインへのインターフェイスです。リソース・エージェントは管理対象サーバにロードされ、サーバ MBean 情報を管理サービスおよび管理コンソールにエクスポートします。リソース・エージェントは、管理対象サーバ情報へのアクセス拠点となります。

各リソース・エージェントはロード・アップされると、管理サービスに登録され、一意の名前が割り当てられます。通常、サーバ終了と共にリソース・エージェントの登録も解除されます。ただし、サーバが正常に完了しなかった場合、システムにリファレンスが残ります。

リソース・エージェント・ファイルの設定

次の変数を使用して、リソース・エージェント・リファレンスが保存される永続ファイルの名前を指定できます。

```
agent_container:persistent_filename = "<persistent-dir>/agents";
```

agents ファイルを指定しなかった場合（またはファイルを作成できない場合）、永続ストレージは使用不可になります。つまり、管理サービスを再起動したとき、登録されたリソース・エージェントが認識されません。

リソース・エージェント・ タイムアウトの設定

次の変数を使用して、タイムアウトを秒単位で指定できます。タイムアウトは、エージェントの動作確認のために、全エージェントに対し発信される ping の発信間隔を指定する値です。

```
agent_container:ping_interval = "10";
```

タイムアウト値には、0 以外の任意の正の数を指定できます。デフォルト値は 10 秒です。

イベント・リスナーの設定

概要

管理サービスからイベントをリクエストするクライアント・アプリケーションは、全てのイベントがすばやくクライアントに渡されるようにするために、イベント・リスナーを登録することができます。このセクションでは、管理サービスにイベント・リスナーのサポートを設定する方法について説明します。

it_management_service コンフィギュレーション・スコープ内の管理サービスのコンフィギュレーション変数を全て設定する必要があります。

イベント・リスナー・ ファイルの設定

次の変数を使用して、イベント・リスナー・リファレンスが保存される永続ファイルの名前を指定できます。

```
event_processor:persistent_filename =  
    "<persistent-dir>/listeners";
```

listeners ファイルを指定しなかった場合（またはファイルを作成できない場合）、永続ストレージは使用不可になります。つまり、管理サービスを再起動したとき、登録されたリソース・リスナーが認識されません。

イベント・リスナー・ タイムアウトの設定

次の変数を使用して、タイムアウトを秒単位で指定できます。タイムアウトは、イベント・リスナーの動作確認のために、全てのイベント・リスナーに対し発信される ping の発信間隔を指定する値です。

```
event_processor:ping_interval = "10";
```

タイムアウト値には、0 秒を除く任意の正の数を指定できます。デフォルト値は 10 秒です。

イベント履歴処理の設定

概要 このセクションでは、イベント履歴ファイル、イベント履歴メモリ容量、およびイベント履歴の消去更新を行う間隔を設定する方法について説明します。

`it_management_service` コンフィギュレーション・スコープ内の管理サービスのコンフィギュレーション変数値を全て設定する必要があります。

イベント履歴 管理対象アプリケーションから管理サービスによって受信されたイベントは、ファイル・システムに記録され、後からアクセスすることができます。

多量のイベント履歴によるシステムのオーバーロードを防止するため、記録するイベント履歴の容量を指定することができます。推奨の記録イベント数は 1000 です。また、イベント履歴ファイルを消去する間隔を指定することもできます。デフォルトの間隔は 10 分です。管理サービスを再起動しない限り、イベントは使用可能です。

イベント履歴ファイルの設定

次の変数を使用して、イベント履歴が保存される永続ファイルを指定します。

```
event_history:persistent_filename = "<persistent-dir>/events";
```

events ファイルを指定しなかった場合（またはファイルを作成できない場合）、永続ストレージは使用不可になります。

イベント履歴メモリの設定

次の変数を使用して、記録されるイベント数を指定します。

```
event_history:memory_capacity = "1000";
```

デフォルトのイベント数は 1000、最大数は 4000 です。必ず正の数を指定してください。

イベント履歴消去更新間隔の設定

次の変数を使用して、イベント履歴が消去される間隔を指定します。

```
event_history:trim_interval = "600";
```

デフォルトの間隔は **600** 秒（10 分）です。必ず正の数を指定してください。

イベント・フィルタの設定

概要 管理サービスからイベントをリクエストするクライアント・アプリケーションは、イベント・フィルタに名前を割り当てる事により、固有のイベントの重要度マッピングおよびイベントのしきい値を保存します。このセクションでは、イベント重要度情報ファイル、およびイベントしきい値情報ファイルを指定する方法について説明します。

イベント重要度 情報ファイルの設定

次の変数を使用して、ファイル・システム内でイベント重要度情報を保存する場所を指定します。（**severities** ファイルは内部使用のアーカイブです。）

```
severity_assigner:persistent_filename =  
    "<persistent-dir>/severities";
```

イベント・フィルタ しきい値ファイルの設定

次の変数を使用して、ファイル・システム内でイベント・フィルタのしきい値を保存する場所を指定します。（**threshold** ファイルは内部専用のアーカイブです。）

```
event_barrier:persistent_filename =  
    "<persistent-dir>/threshold";
```

デフォルトのイベント重要 度情報ファイルの設定

デフォルトの重要度情報ファイルを使用して、デフォルトのイベント重要度マッピングを指定することもできます。このファイル内で指定されるイベントの重要度は、新しいフィルタ全てに適用されます。デフォルトのイベント重要度情報ファイルは、イベント名およびイベント重要度を含むテキスト・ファイルです。

（例えば **com.iona.management.testevent 0**）

有効なイベント重要度は、**0** から **3** の整数で表されます。

0	CRITICAL
1	ERROR
2	WARNING
3	INFO

次の変数を使用して、ファイル・システム内でデフォルトのイベント重要度情報ファイルを保存する場所を指定します。

```
severity_signer:default_filename =  
  
    "config-dir/default_severities.txt";
```

イベント処理の設定

概要 このセクションでは、併合型ロギング、イベント・アイドル期間、およびログファイル・フィルタを設定する方法について説明します。（これらの設定を行う前に、**it_management_service** コンフィギュレーション・スコープ内の管理サービスのコンフィギュレーション変数値を全て設定する必要があります。）

併合型ロギング 同じ名前およびプロパティ値を持つ連続したイベントは、併合型ロギング機能によって整合されます。つまり、連続した同義イベントは無視され、後でまとめて（時間をおいて、または次の異なるイベントの前に）レポートされます。

記録されるイベント数を減らしてシステムへの負担を軽くするため、イベントの併合機能は使用可能に設定してください。

併合型ロギングの有効化 次の変数を使用して、併合型ロギングを制御します。

```
event_listener:consolidated_logging = "true";
```

デフォルト設定は **true** です。

イベント・アイドル期間の設定 アイドル・イベント・フィルタは削除されたイベントが一定時間内に再度リクエストされた場合に、そのイベントを削除された時点と同一の状態内で内部生成できるようにするためのフィルタです。次の変数を使用して、イベント・フィルタがメモリ内で有効な時間を秒単位で指定します。

```
event_processor:idle_period = "3600";
```

デフォルトは **3600** 秒（1 時間）です。

ログファイル・フィルタの設定

予約語である「**logfile**」という名前が割り当てられた特別なフィルタがあります。これは、予約されたシステム・フィルタです。管理サービスはこれを使用して、タブで区切られたテキスト・ファイルを生成します。

次の変数を使用して、これらのイベント・ログ・テキスト・ファイルがシステム内に保存される場所を指定します。

```
event_log:filename_base = "<log-dir>/events";
```

これらのファイル名には、例えば **events.17042001** のように、標準の形式 (**.ddMMyyyy**) でタイムスタンプが追加されます。

管理サービス Web サーバの設定

概要

管理サービスには、HTTP に基づいたアクセス、iPortal Administrator Web Console への Web ブラウザ・インターフェイスが組み込まれています。このセクションでは、このブラウザ・インターフェイスの Web サーバを設定する方法について説明します。

Web サーバの設定

Web サーバの設定に使用するポート番号は、**it_management_service** コンフィギュレーション・スコープ内の **web_server:port_number** コンフィギュレーション変数によって指定されます。デフォルト値は、次のとおりです。

```
web_server:port_number = "3085";
```

この変数またはポートが見つからない場合、Web サーバは使用できません。

iPortal Administrator Web Console

次は、Web サーバのポート番号のコンフィギュレーション設定の例です。

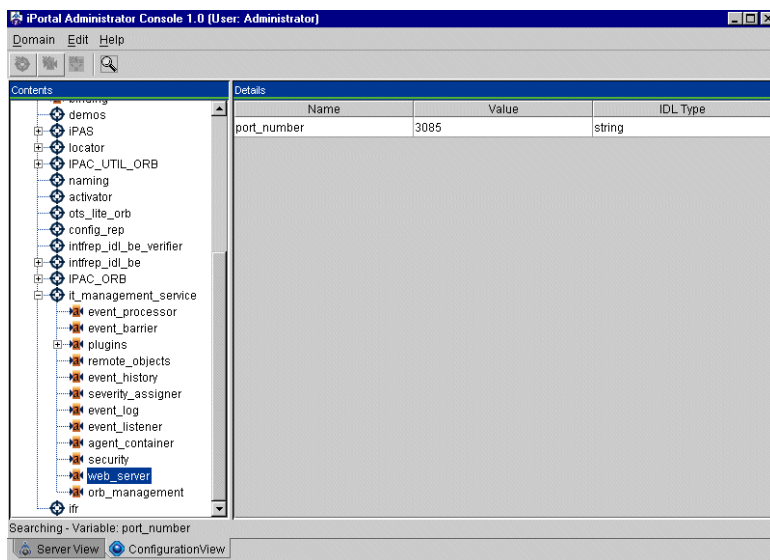


図 63: iPortal Administrator Web Console

技術用語集

A

Administration 管理作業：システムのインストール、コンフィギュレーション設定、デプロイメント、そして監視など、システムを運営するために必要とされる作業一般。

C

CORBA コルバ。IONA 社製品全ての基礎となる標準仕様。OMG (Object Management Group) によって定義されている。
異機種分散環境上における分散オブジェクトの相互運用性およびポータビリティを確保するために定義された標準仕様で、これらのオブジェクトが記述したコンピュータ言語に依存性を持たない。CORBA はまた分散オブジェクトの作成および削除、(ネーミング・サービスによる) 名前を使用した分散オブジェクトへのアクセス、永続ストアへの保存、状態のエクスターナリゼーション、およびオブジェクト間のアドホック関係を定義するための拡張されたサービスのセットを指定する。これに対し、ORB は分散コンポーネントの開発およびディプロイメントのために同じく OMG が定義するより広義なフレームワーク。

Configuration コンフィギュレーション。設定。特定のシステムのための設定。あるいはこの設定作業により設定される値あるいは情報。

Controlling コントロール。制御。ソフトウェア・コンポーネントの動作特性を稼動状態のままに変更する操作。

D

Details Pane 詳細ペイン。iPortal Administrator Console ユーザ・インターフェイス右側の部分の表示枠 (ペインとは窓枠のこと)。

- Deployment** デプロイメント。システム環境上にコンフィギュレーションあるいはシステム・エレメントをインストールして設定する作業。
- Domain** ドメイン。物理的に同一の場所にある、管理対象サーバ・プロセスならびにホストによって構成される抽象的な集合体。同一ドメイン内でのプロセスはコンフィギュレーションならびに分散アプリケーションインフラストラクチャを共有する。
Orbix 2000 あるいは iPortal Application Server コンフィギュレーションドメインと同一。

E

- EJB** Enterprise Java Beans。
- Event** イベント。特定の状況の発生および状態の変化、あるいはシステム内の 1 つ以上のエンティティが需用する情報あるいは手続きが使用（あるいは取得）可能な状態になること。イベントはサプライヤにより生成され、それを需用するコンシューマによって受け取られる。

G

- GUI** Graphical User Interface。グラフィカル・ユーザ・インターフェイス。アイコン、プルダウン・メニュー、マウスなどの画像要素を使用してコンピュータとユーザの対話を行うシステム。

H

- Host** ホスト。分散アプリケーションの一部を実行するコンピュータ。

I

- Installation** インストール。コンピュータにソフトウェアを書き込むこと。通常、インストール作業にはコンフィギュレーション作業は含まれない。(インストーションにデフォルトのコンフィギュレーションが提供されている場合は例外としてコンフィギュレーション作業が含まれる)
- Invocation** 呼び出し。既にアクティブな状態のソフトウェア・コンポーネントに対してリクエストを送ること。

J

- J2EE** Java 2 Enterprise Edition。エンタープライズ・アプリケーションの開発ならびにデプロイメントを行うためのシステム環境。J2EE プラットフォームはサービス。アプリケーション・プログラミング・インターフェイス (API)、ならびに Web ベースの多層アプリケーション開発のための機能を提供するプロトコルによって構成される。
- JRE** Java Runtime Environment。(Java 実行環境)。Java Development Kit (Java 開発キット、あるいは Sun JDK) の一部。Java プログラムを実行するために必要な環境。JRE は Java Virtual Machine、Java プラットフォーム・コア・クラス、ならびにそのサポートファイルで構成される。コンパイラならびにデバッガは含まれていない。
- JMX** Java Management Extensions。(Java 管理拡張機能)。Sun による分散管理ソリューションのための標準仕様。JMX はデバイス、アプリケーション、ならびにサーバ・ベースのネットワークを管理するための Web ベースの分散ソリューションを構築するためのツールを提供する。

M

- Managed Application** 管理対象アプリケーション。構成コンポーネントの物理的なレイアウトに依存しない、分散アプリケーションの抽象的な定義。

Managed Entity	管理対象エンティティ。一般の管理対象コンポーネント。
Managed Server	管理対象サーバ。EJB アプリケーション・サーバあるいは CORBA サーバのインスタンス。
Management	マネージメント。管理。システムあるいはコンポーネントの使用状況を制御する作業。広義では管理（Administration）と同義。
MBean	JMX 用語。一般の管理対象オブジェクトを指す。
Monitoring	モニタリング。監視。ソフトウェア・コンポーネントの実行中のインスタンスの動作特性を監視すること。管理作業とは違い、監視することによってシステムの特徴が変わることは無い。

N

Navigation Tree	ナビゲーション・ツリー。iPortal Administrator Console の GUI 左側にあるツリー状の図。
------------------------	--

O

ORB	CORBA Object Request Broker. CORBA アーキテクチャ・モデルの中心であるコンポーネント。クライアントとサーバの間でミドルウェアとして作動する。
------------	---

P

Physical View	iPortal Administrator から見た分散アプリケーションの図解。ロケーション・ドメイン、ホスト、ならびにサーバ・プロセスから構成される。
----------------------	--

R

Runtime Administration, Runtime Management

ソフトウェアコンポーネントの実行、監視、制御、ならびに停止作業。

S

SNMP

Simple Network Management Protocol. IP ネットワーク上のノードを管理するためのインターネット標準のプロトコル。コンピュータ、ルータ、あるいはハブなど、あらゆるデバイスを管理するために利用できる。

Starting

起動。デプロイされたソフトウェア・コンポーネントのインスタンスをアクティブにすること（活性化すること）。

Stopping

停止。実行中のソフトウェア・コンポーネントのインスタンスを非アクティブにすること（非活性化すること）。

T

Trail

トレール。履歴。Details View 上部にある管理対象サーバのリスト。現在選択されている管理対象エンティティの履歴を表示する。

あ

アクティベーション

activation : 活性化、アクティブ化。プロセスあるいはオブジェクトがリクエストを処理できる状態にすること。

い

イベント	event : 特定の状況の発生および状態の変化、あるいはシステム内の 1 つ以上のエンティティが需用する情報あるいは手続きが使用（あるいは取得）可能な状態になること。イベントはサプライヤにより生成され、それを需用するコンシューマによって受け取られる。
インストール	installation : コンピュータにソフトウェアを書き込むこと。通常、インストール作業にはコンフィギュレーション作業は含まれない。（インストールにデフォルトのコンフィギュレーションが提供されている場合は例外としてコンフィギュレーション作業が含まれる）

え

エンティティ	entity 実在。あるいは構成要素。「物」あるいは「存在」という意味。
--------	--------------------------------------

か

管理	management : システムあるいはコンポーネントの使用状況を制御する作業。広義では管理（Administration）と同義。
管理対象 アプリケーション	managed application : 管理対象アプリケーション。構成コンポーネントの物理的なレイアウトに依存しない、分散アプリケーションの抽象的な定義。
管理対象 エンティティ	managed entity : 一般の管理対象コンポーネント。
管理対象サーバ	managed server : EJB アプリケーション・サーバあるいは CORBA サーバのインスタンス。

き

起動 **starting** : デプロイされたソフトウェア・コンポーネントのインスタンスをアクティブにすること（活性化すること）。

く

グラフィカル・ユーザ・インターフェイス **Graphical User Interface** あるいは **GUI** : グラフィカル・ユーザ・インターフェイス。アイコン、プルダウン・メニュー、マウスなどの画像要素を使用してコンピュータとユーザの対話を行うシステム。

こ

コントロール **controlling** : ソフトウェア・コンポーネントの動作特性を稼動状態のままで変更する操作。

コンフィギュレーション **configuration** : 設定。特定のシステムのための設定。あるいはこの設定作業により設定される値あるいは情報。

し

詳細ペイン **details pane** : iPortal Administrator Console ユーザ・インターフェイス右側の部分の表示枠（ペイン : **pane** とは窓枠のこと）。

て

停止	stopping : 実行中のソフトウェア・コンポーネントのインスタンスを非アクティブにすること（非活性化すること）。
デプロイメント	deployment : システム環境上にコンフィギュレーションあるいはシステム・エレメントをインストールして設定する作業。

と

ドメイン	domain : 物理的に同一の場所にある、管理対象サーバ・プロセスならびにホストによって構成される抽象的な集合体。同一ドメイン内でのプロセスはコンフィギュレーションならびに分散アプリケーションインフラストラクチャを共有する。 Orbix 2000 あるいは iPortal Application Server コンフィギュレーションドメインと同一。
トレール	trail : トレール。履歴。Details View 上部にある管理対象サーバのリスト。現在選択されている管理対象エンティティの履歴を表示する。

な

ナビゲーション・ツリー	navigation tree : iPortal Administrator Console の GUI 左側にあるツリー状の図。
-------------	--

ひ

非アクティブ化	deactivation : 非活性化、パッシベーション。プロセス あるいは オブジェクトを終了あるいは停止すること。パッシベーションは造語。
---------	---

ほ

ホスト **host** : 分散アプリケーションの一部を実行するコンピュータ。

ま

マネージメント **managaement** : 管理。システムあるいはコンポーネントの使用状況を制御する作業。広義では管理（Administration）と同義。

も

モニタリング **monitoring** : 監視。ソフトウェア・コンポーネントの実行中のインスタンスの動作特性を監視すること。管理作業とは違い、監視することによってシステムの特性が変わることは無い。

よ

呼び出し **invocation** : 既にアクティブな状態のソフトウェア・コンポーネントに対してリクエストを送ること。

索引

A

Administrator ユーザ・ロール 71
agent_container:persistent_filename 127
agent_container:ping_interval 128

C

Change Login ダイアログ・ボックス 73
Configuration View タブ
 アイコン 87
 管理サービス用 125
 タブ 85
Connection Timeout 40
Create New User ダイアログ・ボックス 75
Current User Roles ダイアログ・ボックス 77

E

event_barrier:persistent_filename 131
event_history:memory_capacity 130
event_history:persistent_filename 130
event_history:trim_interval 130
event_listener:consolidated_logging 132
event_log:filename_base 133
event_processor:idle_period 132
event_processor:persistent_filename 128
event_processor:ping_interval 129
Events Console 57
 カスタマイズ 63
 起動 58, 118

F

files
 ipa.cfg 83
 ipas-defaults.cfg 83

Find ダイアログ・ボックス 92
 フィルター, イベント
 管理サービスのログ 126

H

Help メニュー 42
History Buffer (履歴バッファ), 設定 60
https 83

I

IIOP 15
ipa.cfg 81, 83
iPAS Administrator ユーザ・ロール 71
ipas-defaults.cfg 83
iPAS Observer ユーザ 71
iPAS Observer ユーザ・ロール 71
iPAS Operator ユーザ・ロール 71
console.html 100
iPortal Administrator Console
 アイコン 36
 概要 17
 起動 29
 操作 32
 ヘルプ 42
 ヘルプの表示 42
 履歴表示 35
iPortal Administrator Web Console
 管理対象サーバ 109
 概要 19
 起動 98, 100
 操作 103
 履歴表示 106
it_management_service 124
IT_MgmtORB コンフィギュレーション 83
IT_MgmtORB コンフィギュレーション・スコープ 83

IT_MGMT_SVC サブシステム 126

J

java iportal.admin コマンド 29

java iportal.server コマンド 28

ortal.server コマンド 99

JMX 47, 110, 111

M

MBean

root MBean 111

MBeans

root MBean 48

定義 47, 111

N

New Window ボタン 106

O

Observer ユーザ・ロール 71

Operator ユーザ・ロール 71

Options ダイアログ・ボックス 40

orb_plugins 127

P

plugins:local_log_stream:filename 82, 126

plugins:local_log_stream:rolling_file 126

Private イベント・フィルター 63

Private フィルター, イベント

Private 63

R

Remove User ダイアログ・ボックス 79

Role Management ダイアログ・ボックス 76

Role Properties ダイアログ・ボックス 78

root MBean, 定義 48, 111

S

security:rolesdb_filename 82

security:userdb_filename 81, 82

Security メニュー 69

setenvs コマンド 28, 98

Set Password ダイアログ・ボックス 80

severity_assigner:default_filename 132

severity_assigner:persistent_filename 131

shared (共用) イベント・フィルター 63

T

TLS/SSL セキュリティ 83

U

User Information ダイアログ・ボックス 72

users ファイル 81

W

web_server:http_dir 102

web_server:port_number 83, 102, 133

Web サーバ

管理サービス用 Web サーバ 133

Web ブラウザ 98

Web ブラウザ, キャッシュ 105

Web ブラウザ, 推奨バージョン 98

あ

アーキテクチャ

iPortal Administrator Console 18

iPortal Administrator Web Console 20

アイコン

Configuration View タブ 87

ナビゲーション・ツリー 87

い

イベント

更新 119

しきい値の設定 119

詳細の完全表示, 表示 62, 120

重要度の設定 60

表示 57, 119

フィルター 61

フィルターの設定 61

オプション 60

イベント・リスト背景の表示色, カスタマイズ 66

イベント・ログ
 設定 126
 ファイルへの出力 126
イベント・ログ、フィルター 126
イベント・ログ・フィルター 126
イベント・ログ・フィルター, event_log 126
イベント重要度
 設定 63
 設定の取り消し 65
イベント重要度リスト 63
イベント表示更新機能, 設定 60
イベントフィルター, 管理サービス用 131
インストールメンテレーション, 定義 15

お

オペレーション 114
オペレーション, 呼び出し 54, 114

か

管理サービス 102
 概要 15
 コンフィギュレーション・スコープ 124
 設定 123
管理対象サーバ 53
 アイコン 38
 起動 52
 制御 52
 属性 49
 属性の表示 112
 定義 47
 定義] 110
 ステータスの表示 51
 ドリリング 49, 112
管理対象サーバ・アイコン
 Server View 38
管理対象サーバ・アイコン
 Server View アイコン 38
 管理対象サーバ 38
管理対象サーバ
 監視 47

こ

更新間隔 40
コマンド

java iportal.admin 29
java iportal.server 28, 99
setenvs 28, 99
コンフィギュレーション 47, 90, 124
コンフィギュレーション・ドメイン
 ファイル 47
コンフィギュレーション・ドメイン
 定義 45
 ファイル 47
コンフィギュレーション・ファイル
 コンフィギュレーション・ドメイン 47
コンフィギュレーション・スコープ 124
 it_management_service 124
 IT_MgmtORB 83
 表示 90
コンフィギュレーション・ネームスペース, 表示 90
コンフィギュレーション変数, 表示 91

さ

サーバ 47
サーバ 47, 51, 52
 監視 47, 110
 管理 43, 109
 起動 52
 制御 52
 ステータスの表示 51

し

詳細ペイン
 iPortal Administrator Web Console 104
新規ユーザ, 追加 74

せ

セキュリティ, TLS/SSL 83

そ

属性
 サーバの表示 49
 設定 53
属性の設定
 管理対象サーバの属性 113
属性の表示
 管理対象サーバ 112

た

- タイマー 40
- タイマー・オプション
 - Connection Timeout 40
 - 更新間隔 40
 - 設定 40
 - ドメインのポーリングを行う間隔 40

つ

- イベント
 - しきい値の設定 66
- ツールバー・アイコン
 - ツールバー 36
- ツールバー・アイコン
 - iPortal Administrator Console 36
 - iPortal Administrator Web Console 107

と

- ドメイン
 - イベントを表示するドメインの選択 58
 - 監視対象ドメインの削除 46
 - 管理 44
 - 管理対象ドメインの選択 45
 - 概要 15
 - ステータスの表示 50
 - 追加 45
 - 定義 44, 110
 - デフォルト 33
 - ポーリング 40
 - ポーリングを行う間隔 40

な

- ナビゲーション・ツリー
 - iPortal Administrator Console 32
 - iPortal Administrator Web Console 103
 - アイコン 87
- ナビゲーションの履歴
 - iPortal Administrator Console 35
 - iPortal Administrator Web Console 106

は

- バージョン 98
- パスワード, 再設定 79

ふ

- ファイル
 - ipa_webconsole.html 100
 - users ファイル 81
- フィルター, イベント
 - shared (共用) 63
- フィルター, イベント
 - 設定 61

へ

- 併合型ログイン, 設定 132
- ヘルプ
 - iPortal Administrator Console 42

ほ

- ポート番号, 管理サービス用 102
- ポーリングを行う間隔, オプション 40

ゆ

- ユーザ・パスワード, 再設定 79
- ユーザ・ロール 70
 - Administrator 69, 71
 - Observer 71
 - Operator 71
 - 変更 76
- ユーザ・ログイン 70

り

- リソース・エージェント
 - 管理サービス用のリソース・エージェントの設定 127
- 履歴表示
 - iPortal Administrator Console 35

ろ

- ログイン ID, 変更 71